

東京都スポーツ振興審議会（第29期第4回）

令和6年6月20日（木曜日）10時00分から12時00分まで

場所：東京都庁第一本庁舎16階北側 特別会議室S6 ※オンライン併用

－ 次 第 －

1 開 会

2 生活文化スポーツ局長挨拶

3 報告事項

（1）第3回審議会の振り返りについて 【資料 1-1】

（2）「東京 2025 世界陸上競技選手権大会」開催に向けた進捗状況について 【資料 1-2】

（3）「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」開催に向けた進捗状況について 【資料 1-3】

4 審議事項

「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について

・パラスポーツの振興について（小淵 和也委員） 【資料 2-1】

・子供・女性のスポーツ振興について（水村 真由美委員） 【資料 2-2】

5 閉 会

第3回審議会の振り返りについて

資料 1-1

学校部活動の地域連携・地域移行について

- 教員側の働き方改革という側面だけではなく、子どもたちを支える地域社会の仕組みづくり、としてとらえる必要がある。地域においては学校と地域を結びつけるコーディネーターの担い手の確保が重要課題。
- スポーツの基盤を支えてきた部活動がどうなるかというのは、スポーツ全体の将来を左右する重大な事項。教育行政、スポーツ行政が協力して進めていくべき。スポーツ行政側で行っていくべきことは何か。
- 地域連携・地域移行に関して課題、進行度は競技や地区によってバラつきがあると思うが、うまく進んでいる地域の取組を他のところにもどう広げていくかが大事。
- 部活動の地域連携・地域移行において、学校から活動場所への移動手段の確保（保護者負担）は課題の一つ。循環バスを学校ごとで回して、地域移行のスポーツ団体と連携をするような形で対応している自治体もあるようだ。
- 部活動のレベルに応じた地域連携・地域移行の方針も検討したほうがよいのではないか。
- 学校の教員と地域移行先の指導者の連絡体制の構築が重要。

スポーツ・身体活動を通じた健康増進について

- 座りっぱなしの課題について、スマートウォッチからの通知など、気づかせてくれるような仕組みが必要。
- スポーツが健康に寄与するというデータや情報を知るだけでもスポーツを身近に感じ、取り組むきっかけになるのではないか。情報を効果的に発信していくことが大事。スポーツ以外の切り口で、いかに情報を効果的に広げるかが重要。
- スポーツを「みる」「支える」の間に、「応援する」というような概念が有用ではないか。
- 基礎自治体も計画をもってスポーツ推進を行っている。効果的な施策展開のためにも、経費補助含め基礎自治体と都が連携して進めていくことが重要。
- スポーツをしたらポイント付与する等、健康寿命を延ばす工夫をし、将来的に介護保険料や医療費の軽減につなげていく取組も重要。
- 障害者にとっては身体の機能を維持するためにスポーツが有用。特に所属のない人、在宅の人へのスポーツ機会の提供が最重要。
- スポーツにおいて「する」「みる」「支える」の3つとも行う人々は、主観的な幸福度が高いというスポーツ庁の調査結果がある。ウェルビーイングを高めていくという視点が重要。

スポーツを通じた地域・経済の活性化について

- 公共スポーツ施設における「誰もが平等に」という発想が、逆に利用者の使いにくさにつながっている側面がある。利用者ニーズを考えた運用をしていくべき。
- スポーツからそれ以外の分野への関心や学びにつなげることも可能。
- スポーツ施設の指定管理の期間が短いと、管理者が新たな設備投資をしづらいという課題がある。長期に安定的に管理ができるようになると、設備投資が促進され、収益を生み、地域を活性化する施設に変わっていくのではないか。
- 限られた財源をどうスポーツに振り向けるか、税金の使い方をPDCAできちんと検証し、ワイズスペンディングをしっかりと考えていくべき。
- 地域の資源を活用し、スポーツと結び付け、地域の活性化につなげていくという視点を計画の中にも盛り込んでほしい。
- スポーツ以外の活用方法により、スポーツ関係以外の部署も巻き込むことで、財源確保や無関心層のスポーツへの関与のきっかけづくりにつながっていくのではないか。

2024 年 5 月 1 日

公益財団法人東京 2025 世界陸上財団

東京 2025 世界陸上 500 Days to Go ! 開催まであと 500 日 ! チケット販売概要について

～東京 2025 世界陸上ファン ID 登録受付、本日スタート！～

東京 2025 世界陸上財団は、東京 2025 世界陸上競技選手権大会の開催まであと 500 日の節目である本日、チケット販売概要を発表します。

チケット販売の開始に先立ち、本日より東京 2025 世界陸上公式サイト内で、東京 2025 世界陸上ファン ID 登録受付を開始します。先行販売においてチケットを購入するためには ID 登録が必要です。登録していただいた方には、大会最新情報をメールでお届けします。



東京 2025 世界陸上ファン ID 登録はこちらから

<https://worldathleticstokyo25.com/jp/signup>



詳細は、公式サイト内の「500 日前特設ページ」をご覧ください。

<https://worldathletics.org/jp/competitions/world-athletics-championships/tokyo25/500-days-to-go>



チケット販売概要

■ 東京 2025 世界陸上のチケットの特徴

✓ 多くのチケットが 10,000 円以下で購入可能

総販売枚数約 70 万枚のうち、約 7 割が 10,000 円以下となります。

✓ 2,025 円の企画チケットを各セッションで 2,025 枚販売

より多くの方が気軽に観戦できるよう、決勝が数多く行われるセッションをはじめ、全日程で、こども・高齢者・障害者を含む家族やグループの方全員が、1 枚 2,025 円で購入可能な企画チケットを各セッションで 2,025 枚販売します（2 名以上での入場が必須）。

■ チケット価格

チケットの価格帯は以下のとおりです。

セッション時間帯		チケット価格帯（税込）
午前		¥ 2,500 ～ ¥ 15,000
平日	午後（夜）	¥ 4,000 ～ ¥ 30,000
土・日・祝日	午後（夜）	¥ 5,000 ～ ¥ 50,000

■ 販売枚数

約 70 万枚

■ 販売方法

大会公式チケット販売サイトを通じて販売するとともに、プレイガイドを活用した販売も実施予定です。

■ 販売開始時期

2024 年夏 プレイガイドでの一次先行販売を予定

2024 年秋 大会公式チケット販売サイトでの二次先行販売を予定

※ 先行販売においてチケットを購入するためには、東京 2025 世界陸上ファン ID 登録が必要です。

※ 一般販売は 2025 年に入ってから行う予定です。

■ その他

✓ チケットの申込・購入方法の詳細は、今後決まり次第、東京 2025 世界陸上公式サイト等でご案内します。

✓ 大会計画や会場等の準備状況により、販売枚数や販売開始時期等は変更となる場合があります。

2024 年 5 月 1 日

公益財団法人東京 2025 世界陸上財団

東京 2025 世界陸上 500 Days to Go ! 開催まであと 500 日 ! 今年の秋、ボランティア募集を開始します

東京 2025 世界陸上財団では、多くの皆さまに様々な場面でボランティアとしてご活躍いただくため、東京 2025 世界陸上大会におけるボランティアのコンセプト等をまとめました。大会成功に向け、積極的なご応募をお待ちしております！

東京 2025 世界陸上 ボランティアの募集概要

■ ボランティアのコンセプト

✓ 幅広い人材の参加

大会運営に携わる運営ボランティアについて、年齢、国籍、障害の有無等を問わず、幅広い人材が参加

✓ 多様な参画機会の提供

セレモニー等を活用するなど、選手や会場と一体となり、大会に参画する機会を提供

✓ 充実した研修の実施

大会に関する基礎知識や役割別研修等の基礎的な研修に加え、セーフガーディングに関する研修等を実施

⇒東京 2020 大会を契機に浸透したボランティア文化の一層の発展を図り、レガシーとして継承

■ ボランティアの概要

募集人数：3,000 人程度

活動想定：空港・ホテル等における選手案内、競技運営、観客サービス、アンチドーピング、チームサービス、VIP 対応 等

募集方法：一般公募

応募条件：2025 年 4 月 1 日時点で満 18 歳以上の方

※小・中・高校生は別途、大会への参画方法について検討

■ 今後のスケジュール（予定）

2024 年夏 募集要項の公表

2024 年秋 募集開始

■ その他

✓ 大会計画や会場等の準備状況により、募集要項の公表や開始時期等は変更となる場合があります。

2024 年 5 月 13 日
公益財団法人東京 2025 世界陸上財団

東京 2025 世界陸上 大会ロゴが決定！

東京 2025 世界陸上競技選手権大会（東京 2025 世界陸上）の大会ロゴが決定しましたので、お知らせします。

公益財団法人東京 2025 世界陸上財団では、大会ロゴの開発を一般公募により進め、368 点の応募作品について、デザイン専門家、アスリート、公募により選ばれた委員で構成される選定委員会により最優秀作品を選定しました。

大会ロゴ



WORLD ATHLETICS PARTNERS



大会ロゴデザインについて

■ デザインコンセプト

世界-東京-つながる。をテーマとしたロゴをデザインしました。東京の都市コードである TYO をモチーフとしてストライプで世界のアスリート、日本、東京が結びつく様子をイメージしました。ストライプは陸上トラックのレーンを表しています。スピード感や躍動感もありながら日本の伝統美も感じさせるロゴデザインです。

■ カラーコンセプト

T の黒はいろんな国のカラーを混ぜ合わせた調和、
Y のゴールドは一番を目指す尊さ、
O の赤は日本の日の丸を表しています。

■ デザイン制作者

中川 亮（なかがわ りょう）



プロフィール

- 在住都道府県：東京都
- 職業：クリエイティブディレクター・デザイナー
- 最終学歴：大阪芸術大学芸術学部デザイン学科卒業
- 職歴：大手企業の CI（コーポレートアイデンティティ）、VI（ビジュアルアイデンティティ）、ロゴデザインに携わる。ブランドコンサルティング会社でのロゴデザイン制作、アスリートサポートプログラム・スポーツブランドを手掛ける会社の取締役として企業ブランディング等を担当。1998－2008、2023－ 個人で「DOT」の名称で CI、ロゴデザイン制作事業を行う。

東京 2025 世界陸上財団会長コメント

■ 尾縣 貢（おがた みつぎ） 東京 2025 世界陸上財団会長

デザインの一般公募、また、ロゴデザイン選定委員会にデザイン専門家、アスリート、そして公募により選ばれた委員の方々にご参加いただくなど、多くの方々にご参加をいただきながら開発した大会ロゴを発表することができ、とても嬉しく思います。このたび発表する大会ロゴが、出場するアスリートを鼓舞するとともに、国内外の多くの方々に親しまれることを期待しています。

WORLD ATHLETICS PARTNERS



選定委員コメント



(左から、住永委員、高井委員、福島委員、木村委員長、秋山委員、末續委員、ホー委員)

■ 委員長

木村 雅彦（きむら まさひこ） 株式会社 GK グラフィックス 代表取締役社長
/ 株式会社 GK デザイン機構 取締役 / グラフィックデザイナー

人々の心に届き記憶に残る大会ロゴを目指して、アスリート、オーディエンス、デザイナーが、それぞれの視点や経験、智恵を結集した審査を行えたことが大きな成果でした。三者が共に学び合うプロセスはとても有意義で、何より楽しいものだったことを記しておきたいと思います。私たちの選んだロゴが、大会の成功を支え、東京から世界に夢や感動、人間の可能性を伝える役割を担うことができると願っています。

■ 委員

秋山 かおり（あきやま かおり） STUDIO BYCOLOR Inc. 代表取締役 / デザイナー

世界陸上に対する熱い思いがたくさんのお応募作品から感じられました。アスリートの末續さん、福島さんを含め貴重な意見を交わしながら選定した最終案は、日本らしさが伝わりやすい配色、そして開催地東京の都市コードを明瞭且つ美しく扇のパターンとして落とし込んだデザインは多様な展開を想起させ、今回の大会を大いに盛り上げるロゴデザインだと期待できました。大会開催に向けた貴重な一歩に関わらせていただいたことに深く御礼を申し上げます。

WORLD ATHLETICS PARTNERS



ヘンリー ホー (Henry Ho) 株式会社 GTDI 代表取締役 / グラフィックデザイナー

私は海外のデザインを多く制作してきた経験を活かし、国際的な視点をどのように取り入れるかを考えながら楽しく審査させていただきました。今回はデザインのプロであるデザイナーと、スポーツに対する熱意と情熱を持つアスリート、そして観客であり一番ロゴを目にする一般の方々が一緒になってロゴを選びました。このような選定プロセスによって、互いの価値観や異なる角度からの視点を対話しながら進めることができ、評価軸が偏ることなく決定できたと思います。

末續 慎吾 (すえつぐ しんご) プロ陸上短距離選手 / 星槎大学特任准教授

この度東京 2025 世界陸上ロゴ選定委員に就任させて頂きありがとうございました。今回、選定委員の皆様との熱い協議により選出されたロゴが今大会を通して世界に向けて発信される事に待ち遠しく心躍る気持ちでいます。そして、選出されたロゴが日本ならびに世界中の方の記憶に残り、東京 2025 世界陸上の成功と歴史に繋る事を心から祈っています。

福島 千里 (ふくしま ちさと) 元陸上短距離選手 / 順天堂大学スポーツ健康科学部特任助教

大会ロゴの選定に携わらせていただき大変光栄でした。今回参加させていただき、ロゴデザインの応募数の多さや選定に関係する方々の多さに驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。ひとつのロゴが出来上がる背景に触れ、そのプロセスは我々アスリートのパフォーマンスとして表現することと似ているのかなと感じ、とても感動しました。このロゴが選手のパフォーマンスと共に、みなさんの思い出に残り、東京 2025 世界陸上の記憶がいつまでもよみがえるようなきっかけとなることを期待しています。

住永 正 (すみなが ただし) 公募により選ばれた委員 / 会社員

東京 2025 世界陸上ロゴ選定の活動はとても刺激に溢れ、勉強になりました。選ばれたロゴは、将来、2025 大会の熱戦の記憶と共に思い出されるような、陸上らしさと日本らしさを象徴する作品だと感じます。公募期間においても多くのロゴが寄せられました。ロゴ決定のプロセスに携わった全ての方に感謝しています。これからは本大会の一ファンとして大会を楽しみに待つと共に、大会が活力を人々に提供できることを祈っています。

高井 美希 (たかい みき) 公募により選ばれた委員 / 会社員

この度は東京 2025 世界陸上ロゴ選定委員に選んでいただき、ありがとうございました！
ただの陸上競技好きな私ですが、貴重な経験や学びを得、素敵なロゴを選べたのではないかと感じています。それは委員長をはじめ、選定委員の皆さんと有意義な時間を過ごせた事が一番大きな要因かと思います。
一日でも早く選ばれたロゴを通じて東京 2025 大会が陸上競技ファンのみならず、たくさんの人とワクワクを共有できたらうれしいです。

大会ロゴ開発プロセスについて

時期	プロセス
2023 年 11 月 30 日	大会ロゴデザイン、公募委員の募集開始
2023 年 12 月 25 日	公募委員応募締切（応募総数：29 人）
2024 年 1 月 15 日	大会ロゴデザイン応募締切（応募総数：368 点）
	要件確認（募集要項に反するデザインを除外）
2024 年 1 月 29 日	予備選定会（デザインの観点から絞り込み）
2024 年 2 月 21 日	一次選定委員会（上位作品を選定）
2024 年 3 月	WA 承認→商標調査
2024 年 3 月 22 日	二次選定委員会（1 作品を選定）

大会ロゴ開発方針について

■ 方針 1：人々に親しまれ、多くの参画を得られる

→気運醸成や都民参画の機会とするため、デザイン案の一般公募を実施

→選定委員会の委員の一部を公募により選出

■ 方針 2：未来を担う子供たちが、世界陸上に参加できる

→ジュニア陸上選手の「東京 2025 世界陸上への期待、陸上競技、東京開催への思い」を、募集のコンセプトに反映

■ 方針 3：東京、日本の魅力を世界に向けて発信する

→開催地である東京、日本を象徴するデザイン（芸術、文化、建築等）を反映

WORLD ATHLETICS PARTNERS



未来を担う子供たちが世界陸上に参加する取組について

当財団では、昨年 11 月の大会ロゴデザイン募集にあたり、ジュニア陸上選手へのインタビューを行いました。その声をご紹介します。

■ 東京 2025 世界陸上に期待すること

- 日本や東京のすばらしさを世界に伝えられる大会
- できるだけ多くの国が参加し、多くの国の人に見てもらえる大会
- 国境やジェンダーの垣根を越えて、人種差別のない、選手平等の大会
- 様々なものが止まっていたコロナ禍からの再起動を示す大会
- 高齢者の方や小さな子供を含めて幅広い層のお客さんに見てもらえて、見ている全員が応援、熱中できる大会
- 見てくれた人が陸上に触れるきっかけ、興味を持ってもらえるきっかけになる大会
- 立場関係なく協力しあい、一体感のある大会
- スポーツマンシップを大切に汗も涙も輝く大会



■ 大会ロゴに期待すること

- 東京らしさや日本らしさが表現されたロゴ
- 東京や日本の魅力、文化、伝統、風景、風土、季節などが表現されたロゴ
- 日本らしさもあるけど世界の人たちにも受け入れられるロゴ
- 陸上競技の情熱があふれるロゴ
- 多様性が表現されたロゴ



WORLD ATHLETICS PARTNERS





東京2025デフリンピック 進捗状況

2024年度の主な取組み



○クラウドファンディングの開始（5月）※寄附・協賛は3月に開始済み

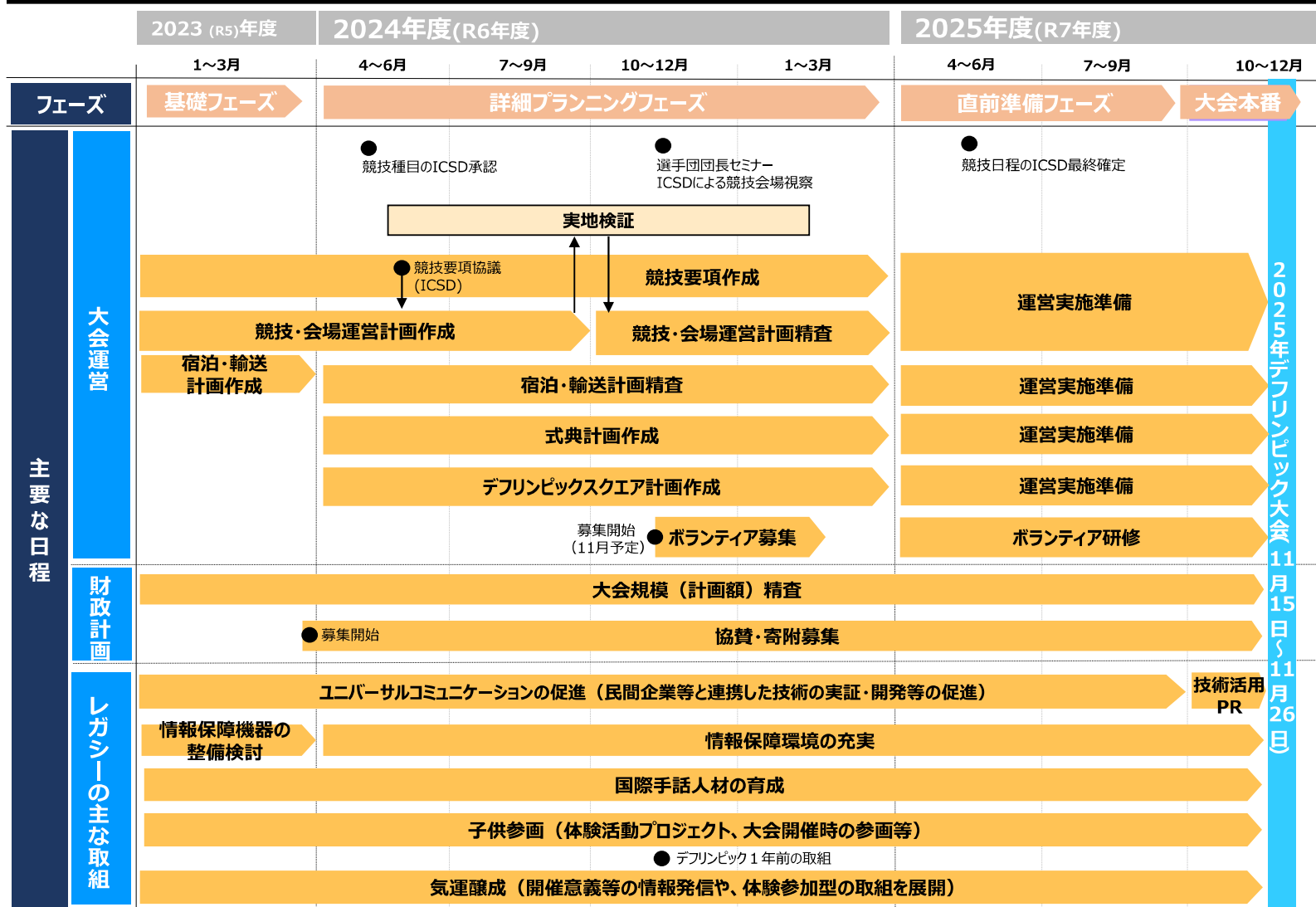
○大会公式マスコット、デフリンピック応援隊の公表（6月）

○大会1年前イベントの開催（11月）

○大会ボランティアの募集（11月頃）

○選手団団長セミナーの開催（11月頃）

東京2025デフリンピック ロードマップ[°] 2024年3月時点



みんなでデフリンピックを応援しよう

寄附・協賛
受付中！！

デフアスリートの国際スポーツ大会デフリンピックが、日本で初めて、東京で開催
デフリンピックの開催を通じて「インクルーシブな街・東京」の実現を目指します



寄附
(口座振込)

クラウド
ファンディング

協賛

※企業・団体等
を対象

詳細は、デフリンピック準備運営本部HPをご覧ください



デフリンピック 応援しよう

検索

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

東京 2025 デフリンピック応援隊を結成

東京 2025 デフリンピックを多くの方々が応援し、大会に親しみを持ってもらえるよう、各自治体等のキャラクターによる「東京 2025 デフリンピック応援隊」を結成しました。東京 2025デフリンピック応援隊は、各地で大会に向けた気運醸成やデフアスリートを応援し、大会を盛り上げます。

また、都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」は、東京2025 デフリンピック公式マスコットとして応援隊の先頭に立って活躍します。



ふくしまを応援する
ベコ太郎



静岡県イメージキャラクター
ふじっぴー



東京都スポーツ文化事業団
マスコットキャラクター
SUSIE (スージー)



【東京 2025 デフリンピック公式マスコットゆりーと】

応援隊メンバーは引き続き募集しています

2024年6月20日
東京都スポーツ振興審議会

パラスポーツの振興について

笹川スポーツ財団
小淵和也
博士(リハビリテーション科学)

●国内における障害者スポーツ施策と東京都の動き

- 2011年 スポーツ基本法が施行
→障害者のスポーツ振興に言及

- 2012年 第1期スポーツ基本計画を策定
→今後5年間で、総合的かつ計画的に取り組むべき施策を示す

●2010年 スポーツ行政の一元化
→障害者スポーツを障害福祉行政からスポーツ行政へ

●2012年 東京都障害者スポーツ振興計画

●2013年 スポーツ祭東京2013の開催

- 2014年 障害者スポーツの管轄省庁の移管
→障害者スポーツ事業を厚生労働省から文部科学省に移管

- 2015年 スポーツ庁が設置

- 2017年 第2期スポーツ基本計画を策定

- 2022年 第3期スポーツ基本計画を策定

● 障害者権利条約の批准

2006年 国際連合「障害者権利条約」採択

(障害者の権利に関する条約)

2011年 障害者基本法改正⇒条約の理念を法制化

障害の社会モデルをふまえた障害の定義の見直し

2013年 障害者差別解消法

(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律))

2013年 障害者総合支援法(←障害者自立支援法)

(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律)

2014年 「障害者権利条約」批准

2024年4月 改正障害者差別解消法 施行

東京都は2018年より東京都障害者差別解消条例を施行

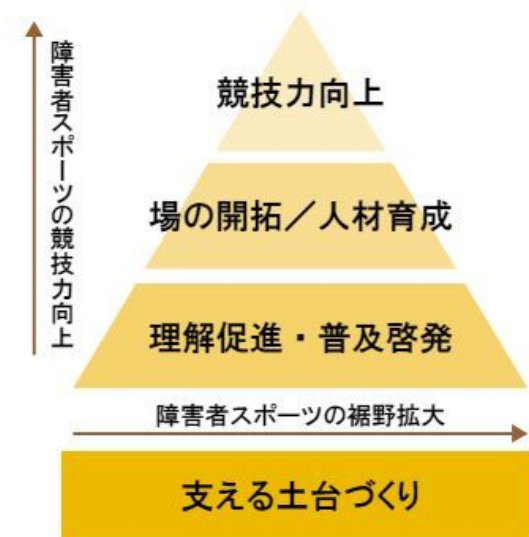
●東京都スポーツ推進総合計画(2018)

障害者スポーツの振興にあたっては、まずは「理解促進・普及啓発」として、障害のある人はもとより、障害のない人にも関心を持ってもらうことにより、障害者スポーツの裾野を広げることが必要です。

その上で、障害者スポーツの「場の開拓」や、障害者スポーツを支える「人材の育成」を通じて、一人でも多くの障害のある人をスポーツ実践につなげるとともに、そこから競技性を追求し、高みを目指す選手を発掘・育成・強化する「競技力向上」により、障害者スポーツを更に発展させていくことが重要です。

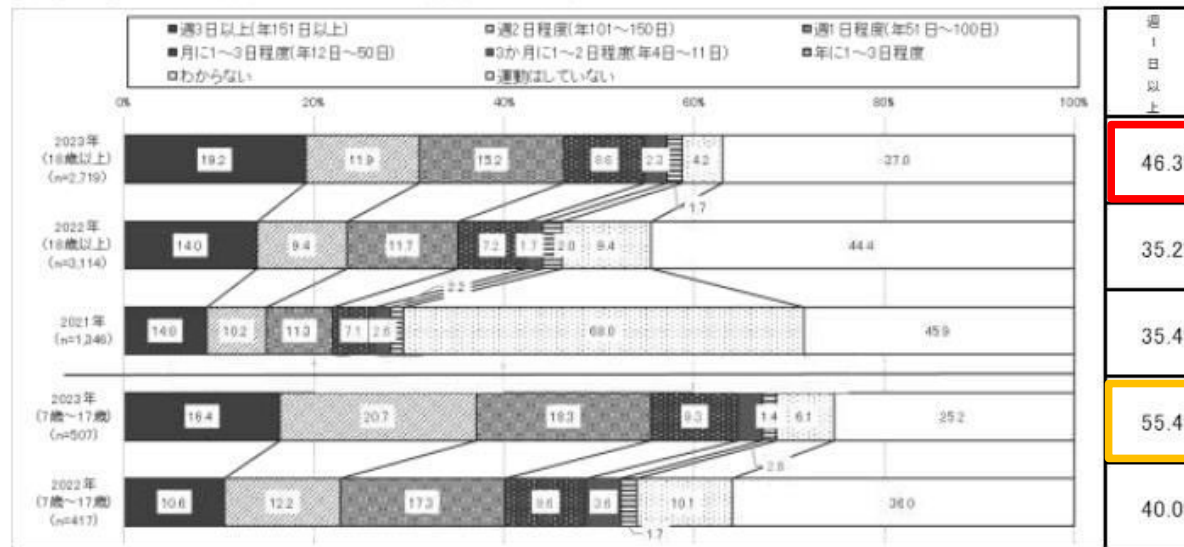
また、障害者スポーツの振興を一過性のものにしないためには、多様な取組を安定的・継続的に実施していくための仕組みや、強固な財政基盤を構築しなければなりません。すなわち障害者スポーツを「支える土台づくり」も欠かせません。

東京都では、「理解促進・普及啓発」、「場の開拓」、「人材育成」、「競技力向上」、「支える土台づくり」の点から施策の展開を図っていきます。



●東京都における障害児・者のスポーツ実施率

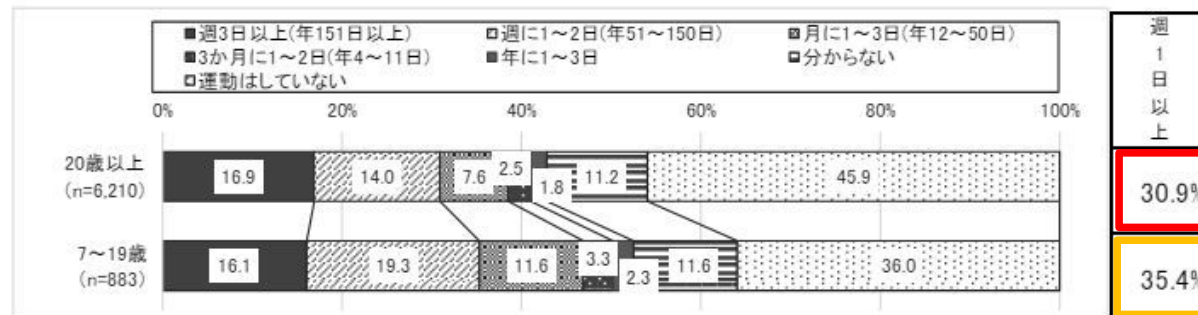
【図表 57】 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数



東京

【図表 58】 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害児・者のスポーツライフに関する調査研究)』(スポーツ庁: 令和5年3月)

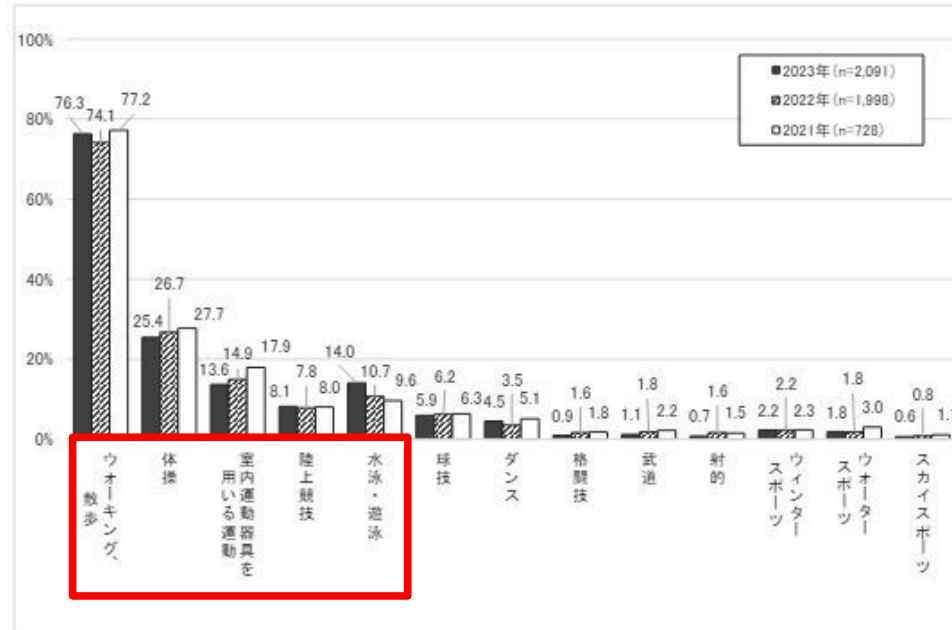


全国

東京都「令和5年度障害者のスポーツに関する意識調査報告書」(2024)

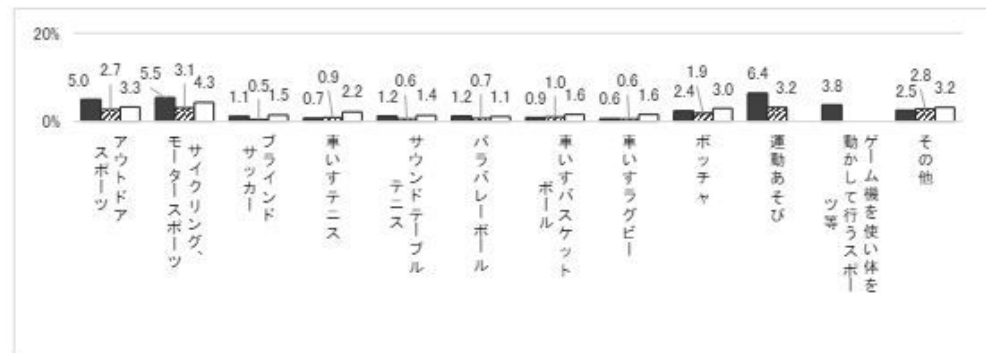
●東京都における障害児・者のスポーツ実施種目

【図表 67】 過去1年間に行ったスポーツ・運動[複数回答](スポーツ・運動実施者)



上位にあがる実施種目は

- ウォーキング、散歩
- 体操
- 屋内運動器具を用いる運動



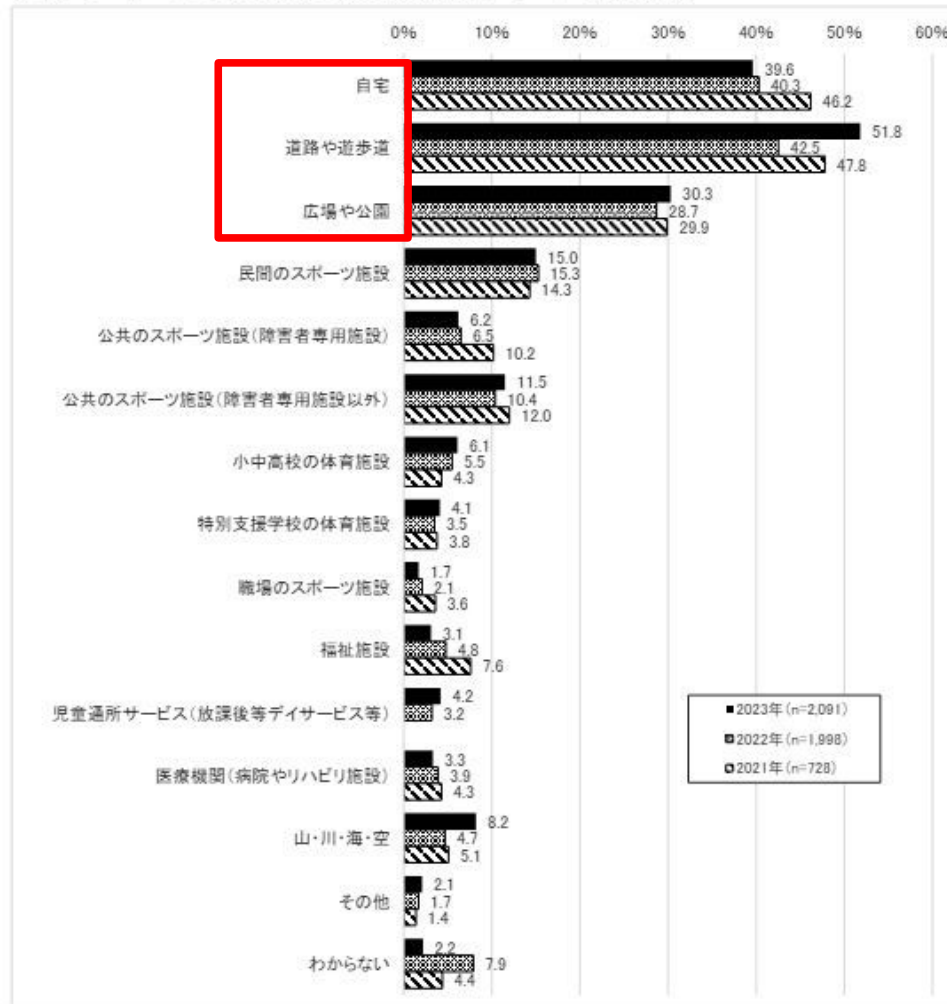
注1：2021年までは18歳以上、2022年からは7歳以上を調査対象としている。2023年分の18歳以上の数値は次ページを参照

注2：「運動あそび」は鬼ごっこやかくれんぼ、鉄棒、ブランコなどを指し、2022年度調査から選択肢を追加

東京都「令和5年度障害者のスポーツに関する意識調査報告書」(2024)

●東京都における障害児・者のスポーツ実施場所

【図表 75】スポーツ・運動を実施する場所〔複数回答〕〈スポーツ・運動実施者〉



上位にあがる実施場所は

- 自宅
- 道路や遊歩道
- 広場や公園

注1：2021年までは18歳以上、2022年からは7歳以上を調査対象としている。2023年分の18歳以上の数値は次ページを参照

注2：「児童通所サービス」は、2022年度調査から選択肢を追加

東京都「令和5年度障害者のスポーツに関する意識調査報告書」(2024)

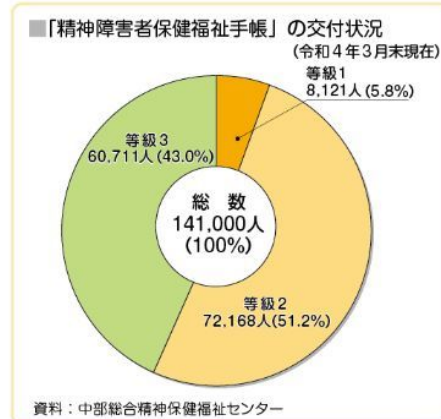
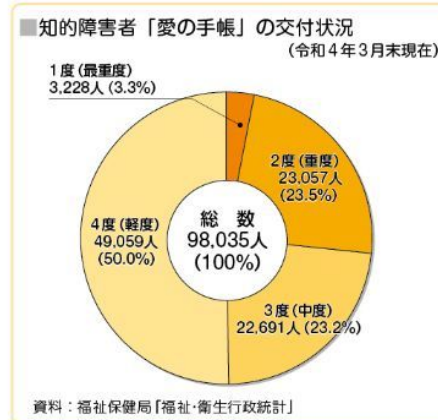
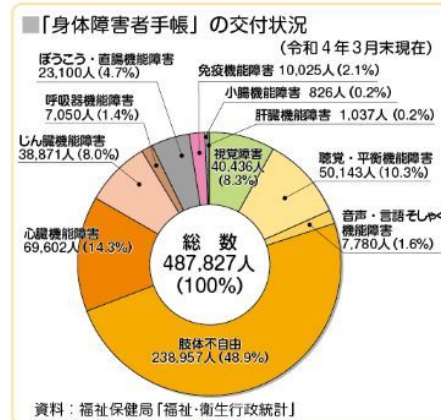
●障害児・者の障害者手帳所持者数

東京都は、令和3年6月に策定した「東京都障害者・障害児施策推進計画」に基づき、障害者施策の総合的な展開に取り組んでいきます。

障害者(児)の現状

障害者手帳の所持者数

現在、都内には身体障害者手帳の交付を受けている人が約48万8千人、愛の手帳（知的障害者・児を対象）の交付を受けている人が約9万8千人、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人が約14万人います（令和4年3月末現在）。



- 身体障害者手帳 48万7,827人
- 知的障害者「愛の手帳」 9万8,035人
- 精神障害者保健福祉手帳 14万1,000人



約72万6,862人

東京都「東京都の福祉保健」(2023)

●東京都における障害者スポーツ施設

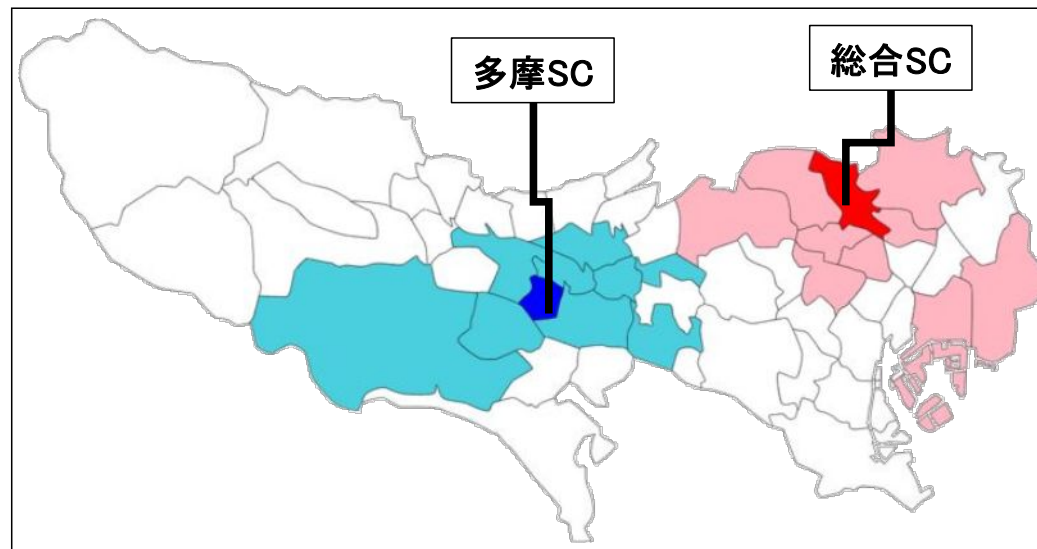
東京都には障害者**専用**スポーツセンターが2施設ある(全国には5施設)

①東京都障害者総合スポーツセンター(総合SC)

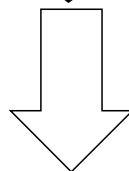
②東京都多摩障害者スポーツセンター(多摩SC)

2施設の指定管理者が、【東京都障害者スポーツ協会】

現在は、東京都パラスポーツトレーニングセンターの指定管理者でもある。



障害当事者が通える範囲に 障害者専用・優先スポーツ施設がない場合は、 どこでスポーツするのでしょうか？



一般の公共スポーツ施設 民間スポーツクラブ

東京都は、すでに様々な事業を東京都障害者スポーツ協会と協力して実施中

体育・スポーツ施設	総数	学校体育・スポーツ施設					大学・	公共スポーツ施設			民間 スポーツ 施設
		計	小学校	中学校	高等 学校等	専修・ 各種学校	高専体育 施設	計	公立社会教育 施設に 付帯するス ポーツ施設	社会体育 施設	
総 数	211,300	121,901	52,401	35,645	32,956	899	7,838	51,740	6,082	45,658	29,821
東 京	15,947	8,530	3,840	2,271	2,286	133	1,067	2,413	184	2,229	3,937

スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査」(2021)をもとに集計

●東京都障害者スポーツ協会との共同研究

東京都障害者スポーツ協会と笹川スポーツ財団は、障害者が身近な地域で運動・スポーツに親しめる環境整備に向けての効果的な施策や取組を検討するため共同研究を実施した。

本研究では、東京都障害者総合スポーツセンターと東京都多摩障害者スポーツセンター、周辺自治体の公共スポーツ施設や多機能型施設、公民館等を対象に、障害者スポーツセンター、公共スポーツ施設等の機能・役割を明らかにした。

●障害者スポーツセンターをハブとした施設ネットワーク

障害者が身近な地域でスポーツに親しめる社会の実現のためには、障害者スポーツの専門性の高い施設とその他の施設とのネットワーク化・連携を促進する必要がある。ここでは、スポーツ施設を以下の3つに分類した。

1)ハブ施設:

障害者スポーツの拠点(ハブ)として機能する障害者スポーツセンター

① 障害者のスポーツの場のコーディネートや質の高い指導ができる人材がいる障害者専用・優先スポーツ施設⇒日本パラスポーツ協会「パラスポーツセンター協議会」加盟施設

2)サテライト施設:

都道府県・市町村単位で障害者の日常的なスポーツ活動の場となる施設

② ①を除く障害者専用・優先スポーツ施設

③ ①と②をのぞく公共スポーツ施設

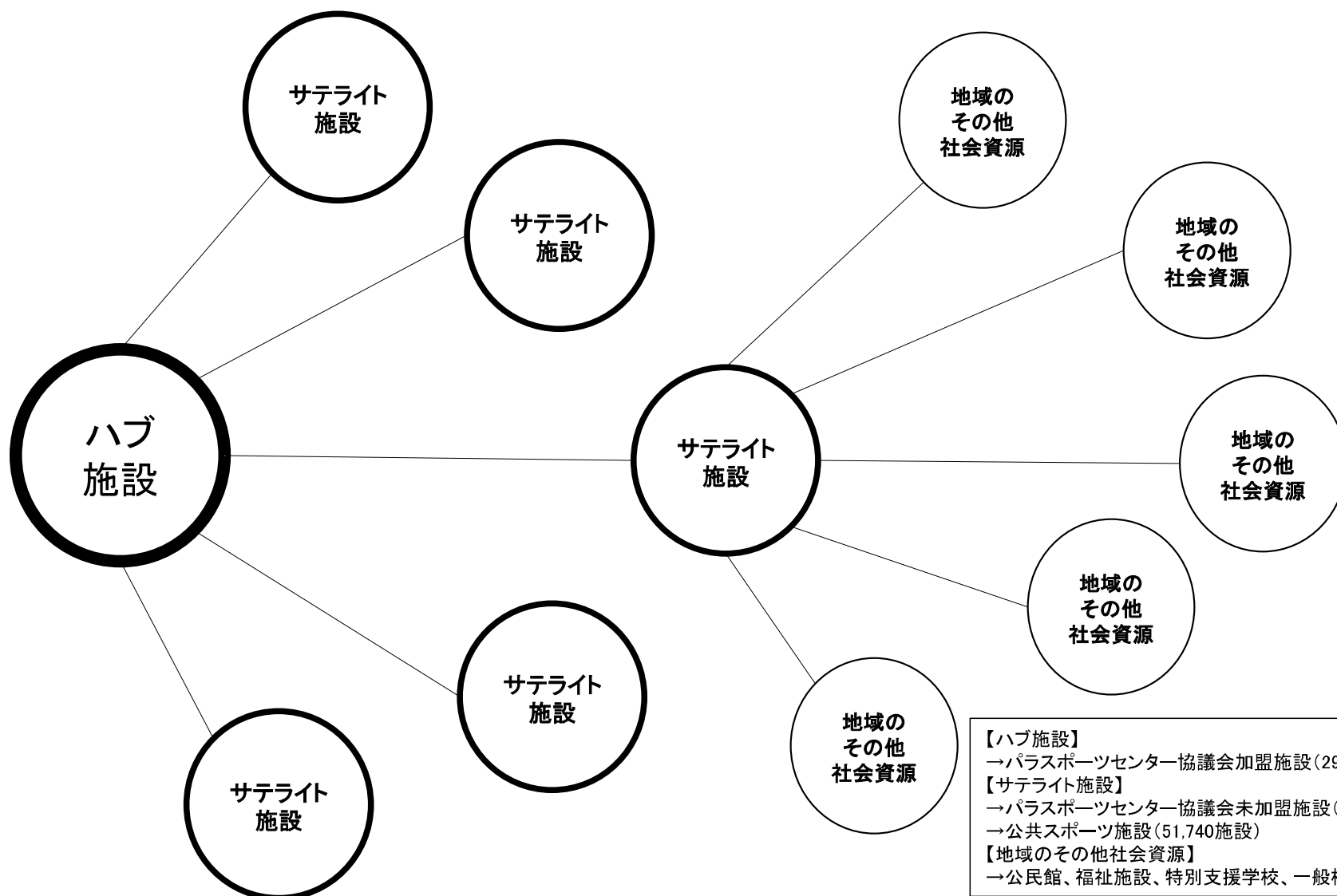
3)地域のその他社会資源:

ハブ・サテライト施設以外で、障害者のスポーツの場となる施設

④ 公民館、福祉施設、特別支援学校・一般校

笹川スポーツ財団「東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究」(2023)

●障害者スポーツセンターをハブとした施設ネットワーク



笹川スポーツ財団「東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究」(2023)

●施設の役割別に求められる障害者のスポーツ推進事業

	【ハブ施設】 障害者スポーツセンター	【サテライト施設】 障害者優先スポーツ施設 公共スポーツ施設	【地域のその他社会資源】 公民館、福祉施設、 特別支援学校、一般校等
1. 「運動・スポーツ相談」事業	◎ 医師・理学療法士等による スポーツ医事相談、運動相談など	○ ハブ施設からの助言	○ ハブ施設からの助言
2. 「スポーツ教室」事業	◎ 種目別教室、 初・中・上級向け教室、 重度障害者向け教室、 出前教室等	○ 種目別教室、 初心者向け教室、 障害の有無に関わらず参加できる 運動・スポーツ教室	○ 種目別教室、 初心者向け教室、 障害の有無に関わらず参加できる 運動・スポーツ教室
3. 「クラブ・サークル活動支援」事業	◎ サークル設立支援、 サークルの地域移行 (サテライト施設等利用) 支援	○ サークル設立支援 (教室参加者への働きかけ)	○ サークル設立支援 (教室参加者への働きかけ)
4. 「イベント（大会・体験会等）」事業	◎ 大会・イベント・体験会の主催、 参加者の施設定期利用の促進	○ 大会・イベント・体験会の 主催・共催、 参加者の施設定期利用の促進	
5. 「講習会・研修会」事業	◎ 指導者の養成講習会、 フォローアップ講習会、 リ・スタート研修会、 指導補助・教室運営補助、 人材育成の研修会	○ 指導者の養成講習会、 指導補助・教室運営補助、 人材育成の研修会	

◎必須要件 ○任意要件

笹川スポーツ財団「東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究」(2023)

●障害者専用スポーツ施設における専門職

①支援力・指導力

→障害の種類・程度、利用の目的などを問わず、一人ひとりに向き合いスポーツ支援・指導ができる。

②想像力・創造力

→各施設や場所の特色を理解し、障害者のスポーツ環境を整えることができる。

③発信力・調整力・情報収集力

→障害者スポーツに関する情報を発信し、地域の関係機関・団体をつなげることができる。

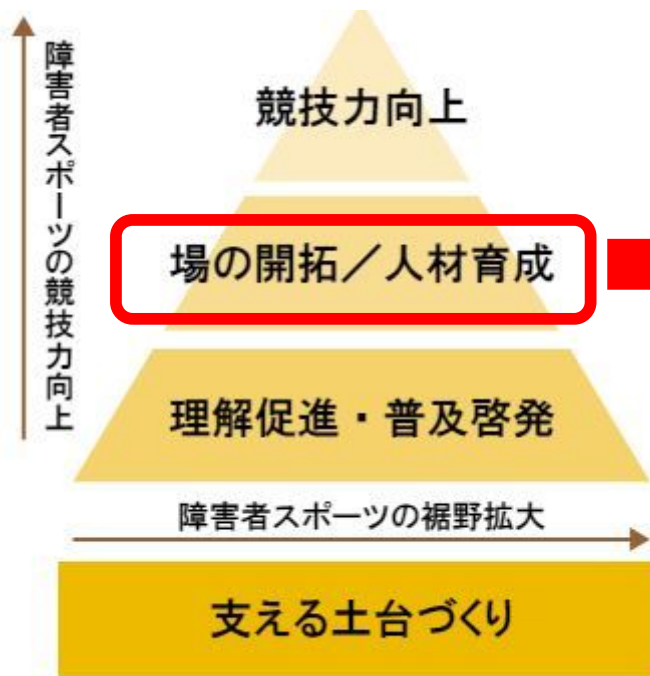
笹川スポーツ財団「東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究」(2023)

障害者専用スポーツ施設の専門職には、スポーツ施設の職員としてのスキルに加えて、障害者のスポーツ指導に関するスキルが必要である。

●今後の東京都における障害者スポーツ振興

①場の開拓→場の“充実”へ

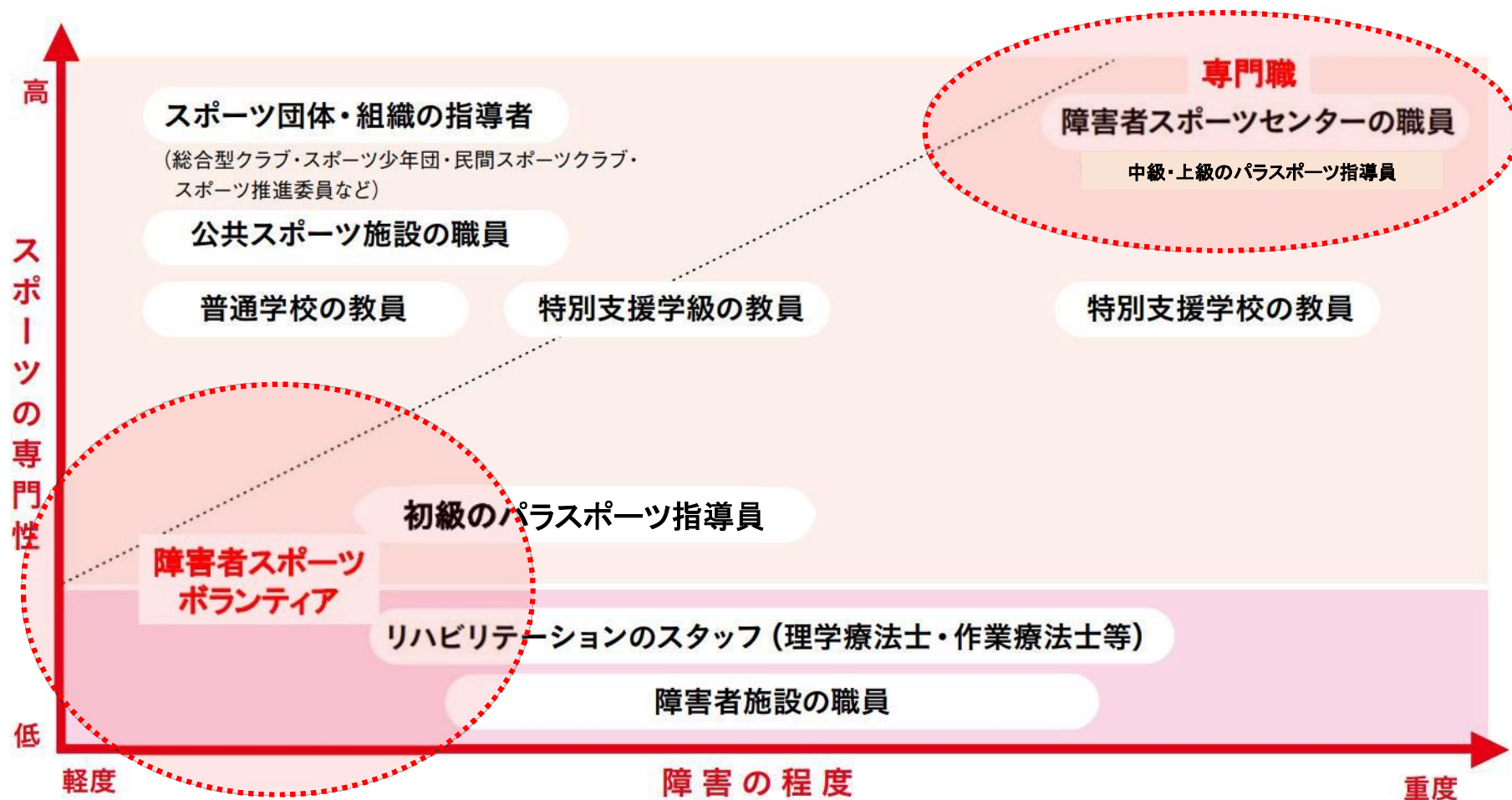
②人材育成→ささえる人材の“効果的”活用



障害者スポーツ行政と
東京都障害者スポーツ協会、
2つの障害者スポーツセンターの
役割はこれまで以上に重要になる

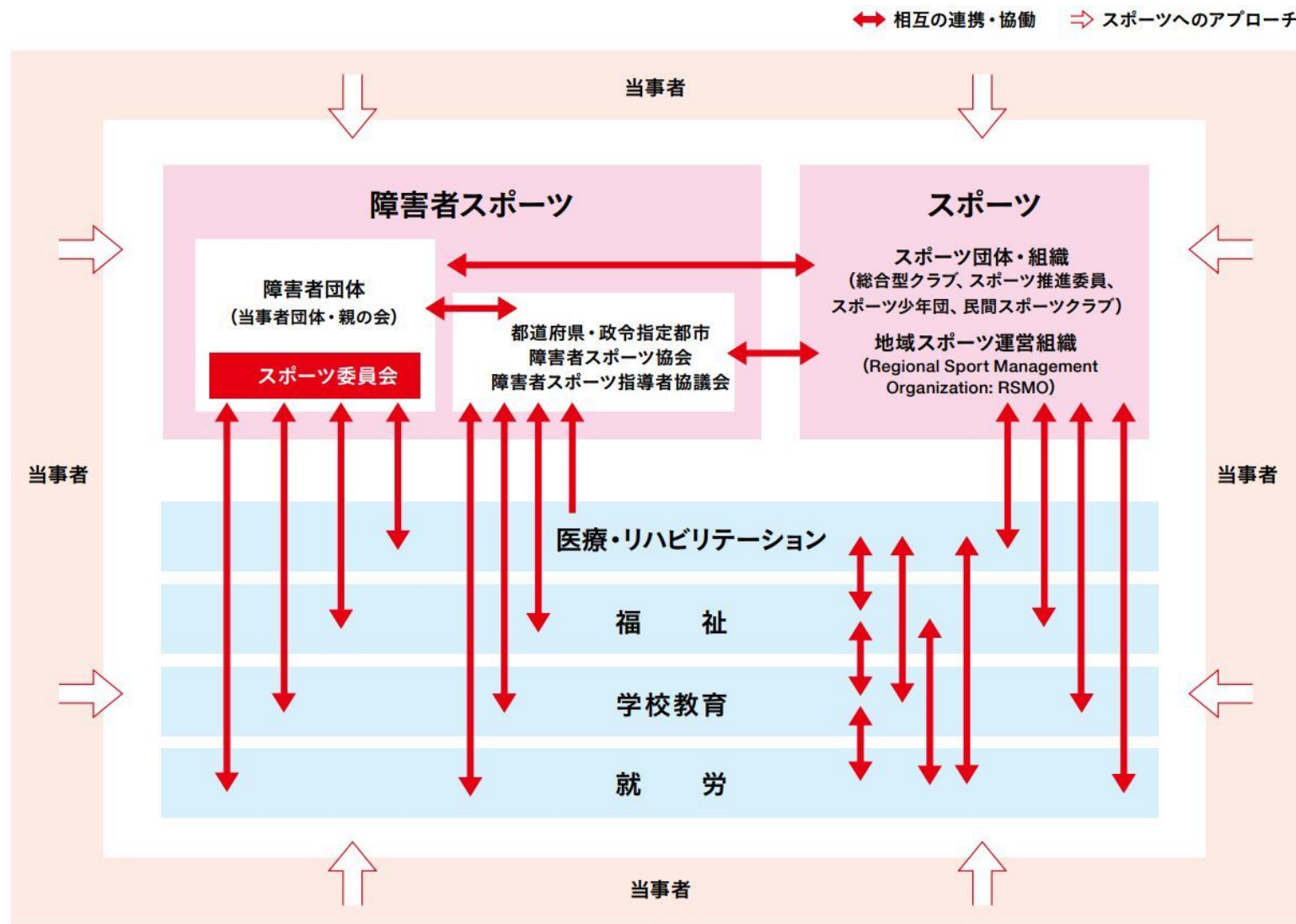
人的リソース(専門職)の不足

●障害者のスポーツ指導に関わる人材の多様性



笹川スポーツ財団「地域における障害者スポーツ施設運営に関する研究」(2024)

●障害児・者がいつでもスポーツできる連携体制図



笹川スポーツ財団「政策提言」(2017)

子供・女性の スポーツ振興について



水村(久埜)真由美



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

お茶の水女子大学 基幹研究院

子どものスポーツ振興



子どもの定義

- 乳幼児期（義務教育年齢に達するまで）
- 学童期（小学生）
- 思春期（中学生からおおむね18歳まで）

スポーツ参加
に関連すると

- 乳幼児期→保護者同伴が必須
- 学童期→低学年は保護者同伴、学年が上がると子どもの意志
- 思春期→自分で行動、部活動の影響、心身の不安定な時期

子どもを取り巻く環境の問題

- スポーツや外遊びに
不可欠な要素の減少

- 時間

- 空間

- 仲間

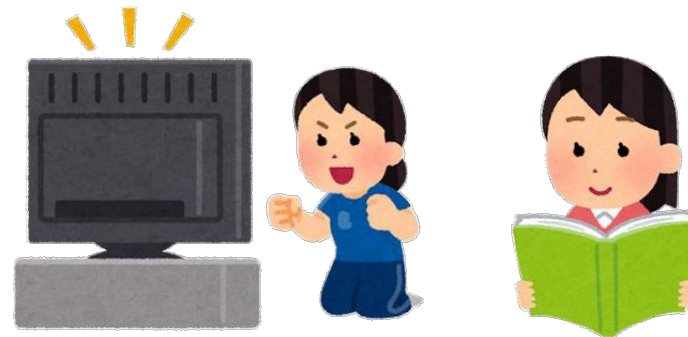
+ 手間

子どもを巡る
「さんま(間)」の
不足

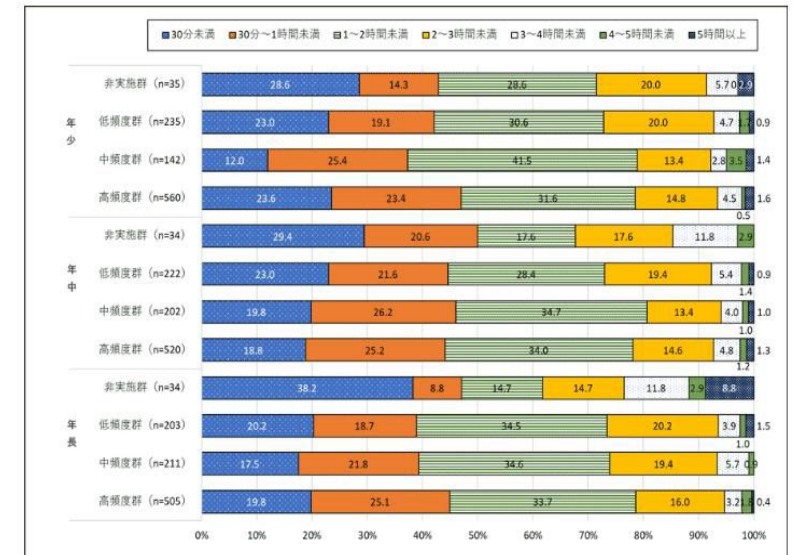
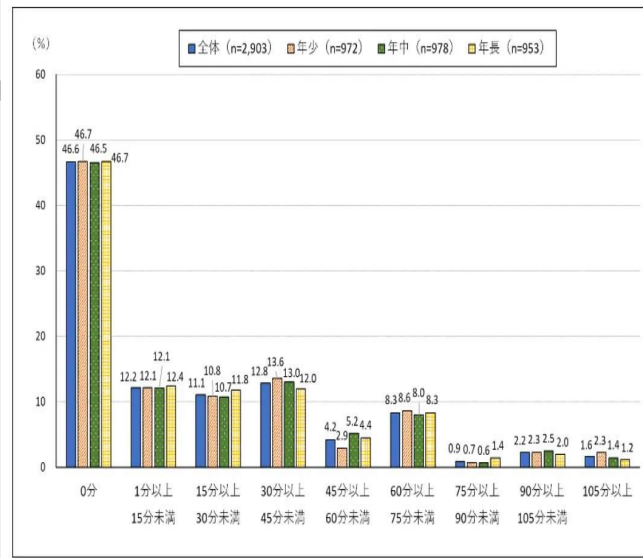
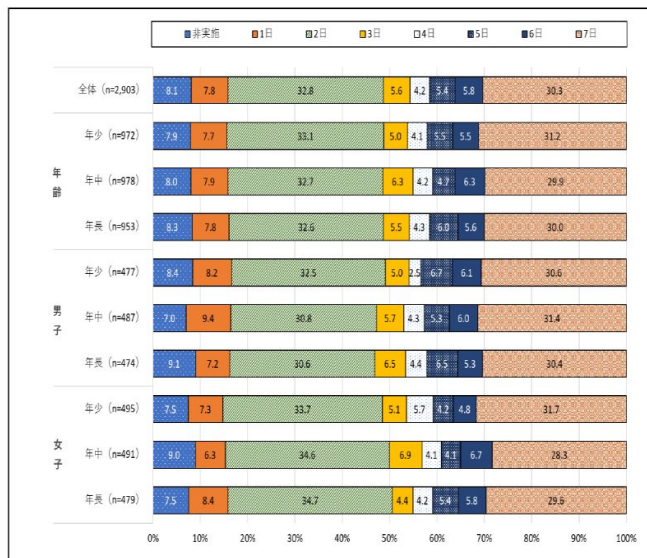


子どもの身体と運動に関する課題

- コロナ禍を経た不活動の影響
 - 強制的な一定期間の不活動
 - 在宅時間の増加
 - 友達と過ごす時間の減少
 - マスクの着用
 - 公園よりも自宅の近く
 - 友達よりも家族と運動
- ✕ 早期に運動スポーツ嫌い
- ○ 運動による快感情の経験
 - する→従来のスポーツ参加
 - みる→応援する
 - 支える→興味をもつ(学ぶ)



全国の幼児（3～6歳）を対象とした運動実施状況に関する調査研究（笹川スポーツ財団、2023）

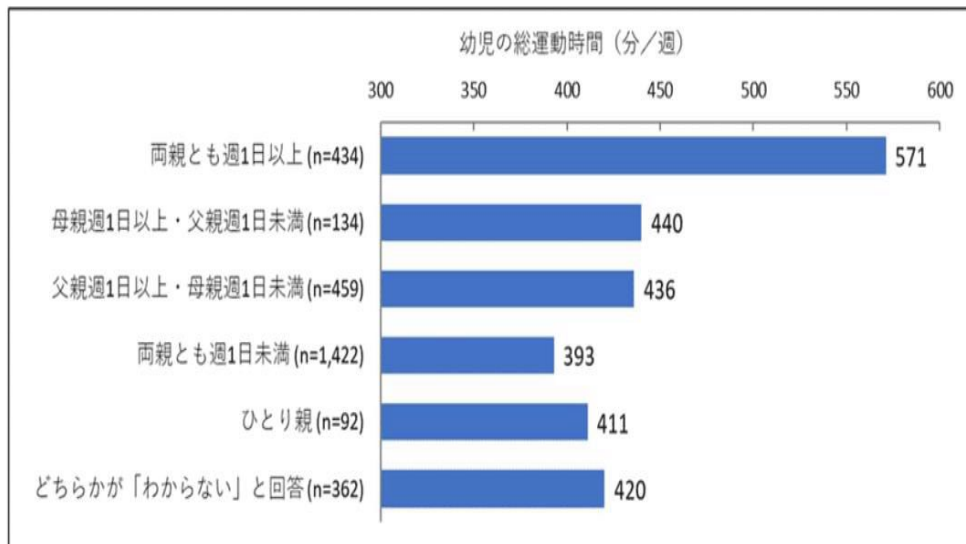


園外で「1日も外遊びをしていない」幼児は8.1%

平日に園外で「全く外遊びをしない」幼児は46.6%

運動実施頻度が高い幼児ほど、平日の「スクリーンタイムが2時間以上」の割合は低い

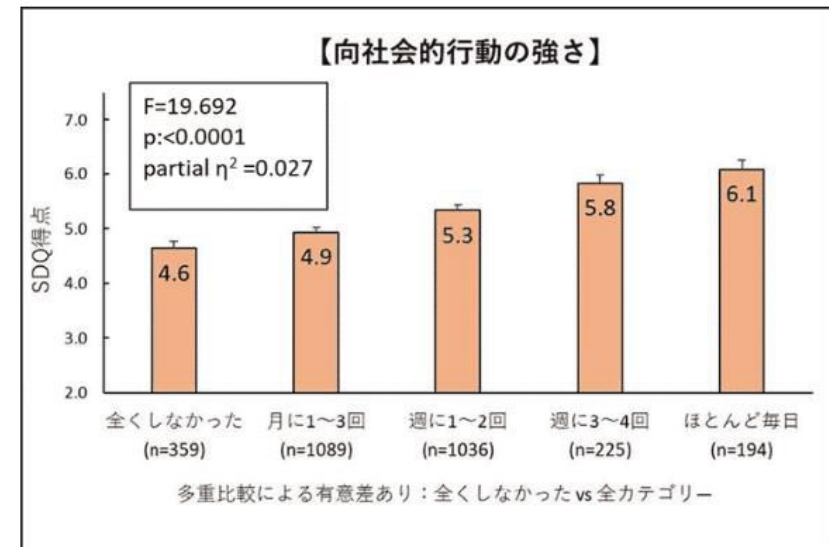
全国の幼児（3～6歳）を対象とした運動実施状況に関する調査研究（笹川スポーツ財団、2023）



注1) 値は共分散分析の調整平均（共変量：子どもの性別、年齢、就園状況、きょうだい人数、世帯年収、親の学歴、運動・スポーツの習いごと）

注2) 多重比較：両親とも週1日以上 > 母親週1日以上・父親週1日未満、父親週1日以上・母親週1日未満、両親とも週1日未満、どちらかが「わからない」と回答

両親ともに週1日以上の運動・スポーツをしている家庭の幼児は、運動時間が長い



注1) 値は共分散分析の調整平均（共変量：子どもの性別、年齢、就園状況、きょうだい人数、世帯年収、親の学歴、回答者の性別）

注2) F値、p値、効果量、および多重比較の結果はSDQ得点のlog変換値を用いた分析に基づく

注3) SDQ日本語版（子どもの強さと困難さアンケート：Strength and Difficulties Questionnaire）は、子どものメンタルヘルス全般をカバーするスクリーニング尺度として開発された指標である。幼児の情緒・行動特性を25項目の質問でたずね、日常生活への適応のしやすさ・しづらさを評価できる。

※図表の数値（％）は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、文中の数値（％）の合計値とは一致しない場合があります。

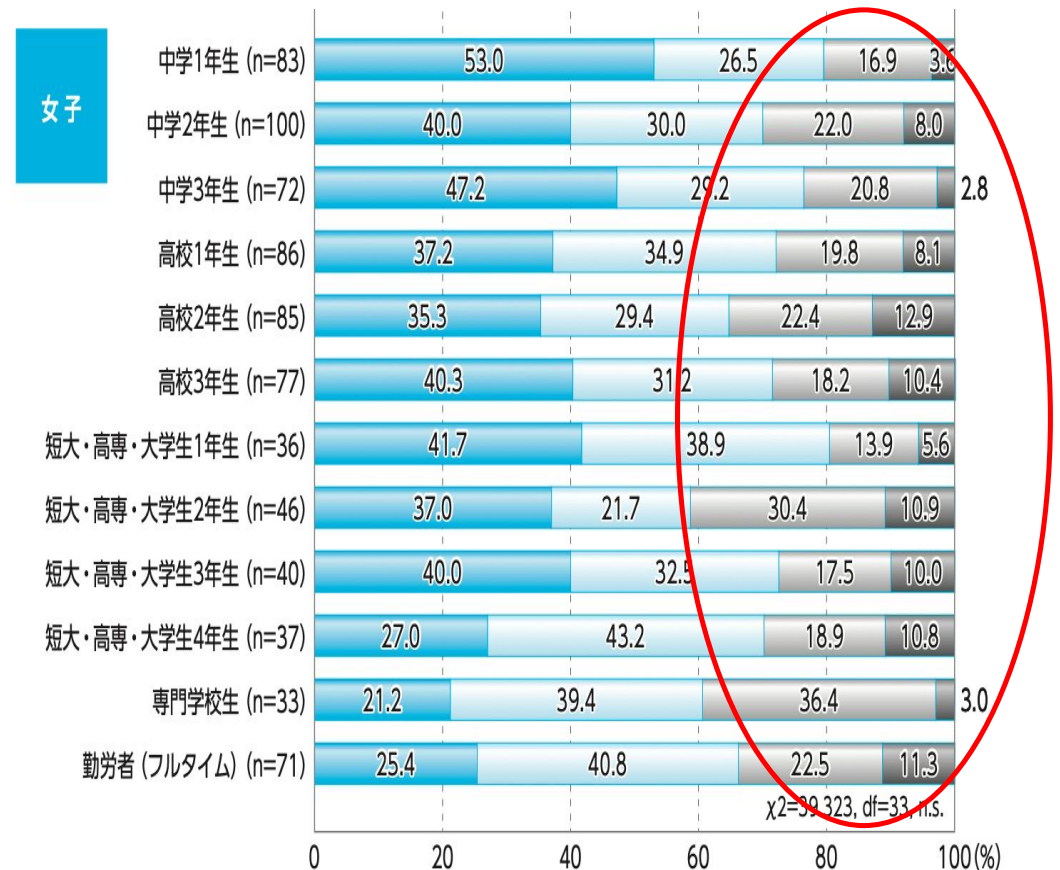
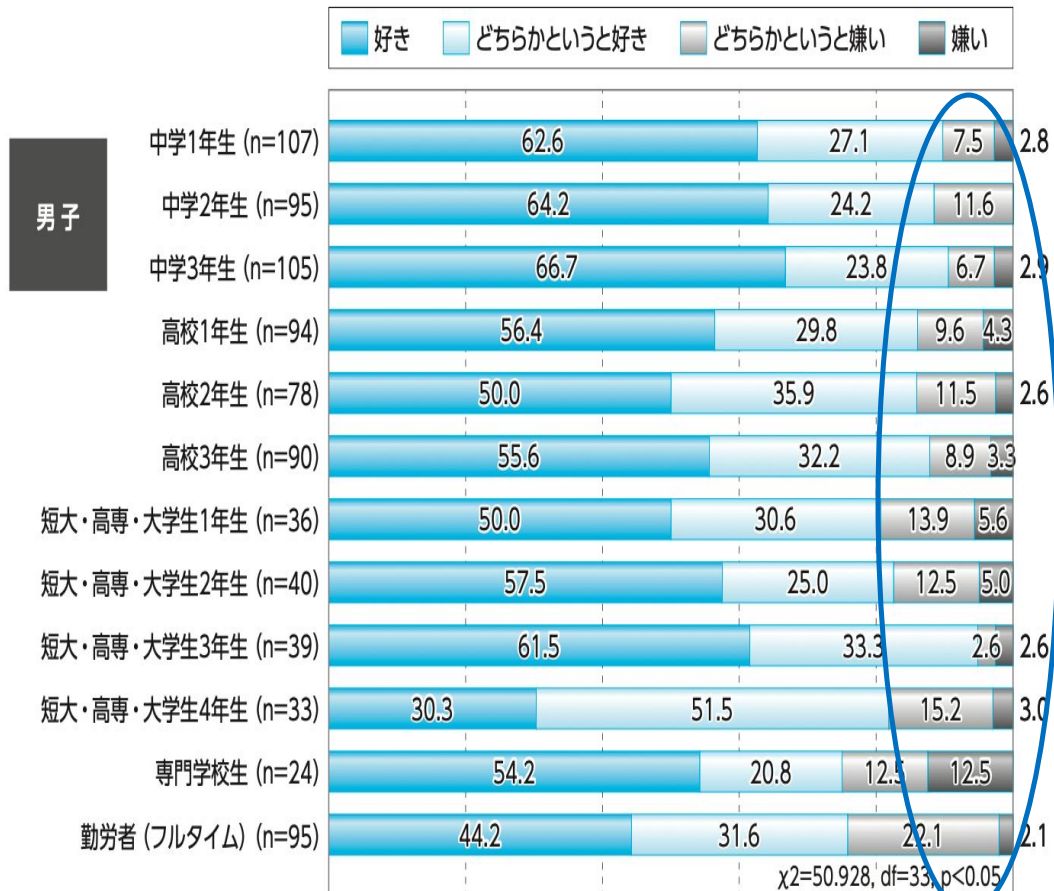
親子で一緒に体を動かして遊ぶ頻度が多いほど、他者を思いやり協力的に行動できる、いわゆる社会性が高い傾向

子ども(4～11歳)のスポーツ参加

(笹川スポーツ財団、2023)

- 運動・スポーツ実施頻度群
 - 高頻度群(運動頻度が週7回以上)=43.3%
- 女子
 - 非実施群(過去1年間にまったく運動・スポーツをしなかった)=3.5%(1.1%増)
 - 低頻度群(運動頻度が年1回以上週3回未満)=20.8%(1.6%増)
 - 中頻度群(運動頻度が週3回以上週7回未満)=36.2%(2.3%増)
 - 高頻度群=39.4%(5.1%減)
- 実施した運動・スポーツ種目
 - 1位 おにごっこ 57.2%
 - 2位 ドッジボール 32.0%
 - 3位 水泳 31.4%
 - 4位 自転車あそび 29.4%
 - 5位 ぶらんこ 28.9%
 - 6位 なわとび、サッカー 25.4%

運動好きと嫌いの割合 (笹川スポーツ財団、2019年)



(出典: 笹川スポーツ財団「子ども・青少年のスポーツライフ・データ2019 4~21歳のスポーツライフに関する調査報告書」)

運動スポーツが好きという経験を創出したい ＝運動スポーツ嫌いのイメージを知る

男 子										
順位	全体	中学校期	高校期	大学期(短大・高専含む)	勤労者(フルタイム)					
1	疲れる	62 疲れる	17 疲れる	7 疲れる	1 疲れる	13				
2	うまくできない・苦手	40 うまくできない・苦手	12 うまくできない・苦手	14 うまくできない・苦手	9 からだを動かすので気持ちがいい	9				
3	やる気が出ない	33 楽しい	9 楽しい	9 からだを動かすので気持ちがいい	7 やる気が出ない	8				
4	からだを動かすので気持ちがいい	29 汗をかくのが気持ち悪い	8 やる気が出ない	8 やる気が出ない	6 楽しい	7				
	楽しい	29 やる気が出ない	7 一緒にできる友だちがいる	7 楽しい	4 汗をかくのが気持ち悪い	5				
6	汗をかくのが気持ち悪い	23 からだを動かすので気持ちがいい	6 汗をかくのが気持ち悪い	7 一緒にできる友だちがいる	4 うまくできない・苦手	3				
7	一緒にできる友だちがいる	15 失敗することが多い	5 からだを動かすので気持ちがいい	5 失敗することが多い	3 一緒にできる友だちがいる	3				
8	失敗することが多い	13 できないと恥ずかしい	4 タイムを計るのが嫌だ	5 上手にできる・得意	2 勝ち負けが決まるのがおもしろい	2				
9	勝ち負けが決まるのがおもしろい	8 勝ち負けが決まるのがおもしろい	3 失敗することが多い	3 汗をかくのが気持ち悪い	2 失敗することが多い	1				
	タイムを計るのが嫌だ	8 友だちが応援してくれる	3 上手にできる・得意	2 勝ち負けが決まるのがおもしろい	1 あきらめずに練習すればできる	1				
			2 勝ち負けが決まるのがおもしろい	2 注意されることが多い	1 友だちの様子が気になる	1				
			2 友だちが応援してくれる	2 友だちが応援してくれる	1 先生やコーチにほめられる	1				
			2 友だちの様子が気になる	2 上手な人と一緒に運動をしなければならない	1					

疲れる

うまくできない
苦手

女 子										
順位	全体	中学校期	高校期	大学期(短大・高専含む)	勤労者(フルタイム)					
1	疲れる	118 疲れる	36 うまくできない・苦手	42 うまくできない・苦手	29 疲れる	11				
2	うまくできない・苦手	117 うまくできない・苦手	38 疲れる	40 疲れる	24 楽しい	9				
3	やる気が出ない	63 やる気が出ない	20 やる気が出ない	28 からだを動かすので気持ちがいい	14 からだを動かすので気持ちがいい	8				
4	楽しい	49 楽しい	9 からだを動かすので気持ちがいい	15 楽しい	13 うまくできない・苦手	8				
	からだを動かすので気持ちがいい	49 できないと恥ずかしい	9 楽しい	11 やる気が出ない	11 一緒にできる友だちがいる	4				
6	できないと恥ずかしい	27 あきらめずに練習すればできる	8 汗をかくのが気持ち悪い	11 できないと恥ずかしい	10 やる気が出ない	2				
7	汗をかくのが気持ち悪い	26 汗をかくのが気持ち悪い	8 失敗することが多い	10 タイムを計るのが嫌だ	5 失敗することが多い	2				
8	一緒にできる友だちがいる	21 からだを動かすので気持ちがいい	7 あきらめずに練習すればできる	7 一緒にできる友だちがいる	4 できないと恥ずかしい	2				
	失敗することが多い	21 一緒にできる友だちがいる	7 勝ち負けが決まるのがおもしろい	7 勝ち負けが決まるのがおもしろい	4 勝ち負けが決まるのがおもしろい	2				
10	勝ち負けが決まるのがおもしろい	19 失敗することが多い	5 できないと恥ずかしい	6 汗をかくのが気持ち悪い	4 あきらめずに練習すればできる	1				
		タイムを計るのが嫌だ	5	注意されることが多い	4 汗をかくのが気持ち悪い	1				
					注意されることが多い	1				
					友だちが応援してくれる	1				

注) 運動・スポーツ嫌い群:「嫌い」「どちらかというと嫌い」の回答を合わせて集計

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

(出典: 笹川スポーツ財団「子ども・青少年のスポーツライフ・データ2019 4～21歳のスポーツライフに関する調査報告書」)

子どものスポーツ参加と保護者 (笹川スポーツ財団、2019)

図表 7-2 スポーツ活動をしていない理由(世帯年収別)

	400万円 未満 (322)	600万円 未満 (313)	800万円 未満 (212)	800万円 以上 (194)
費用の負担が大きいから	59.9	49.5	38.2	27.3
送迎や付き添いの負担が大きいから	61.8	57.2	53.8	47.9
保護者の係や当番の負担が大きいから	53.1	49.8	46.7	38.7
保護者どうしの人間関係に気を使いそうだから	48.1	49.8	41.5	31.4

主1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

主2)「>」は5ポイント以上、「>>」は10ポイント以上差があることを示す。

こどものスポーツ
参加の支援は母親
が担当→負担

図表 7-1 スポーツ活動をしていない理由(スポーツ活動をしていない子)



n=1,321

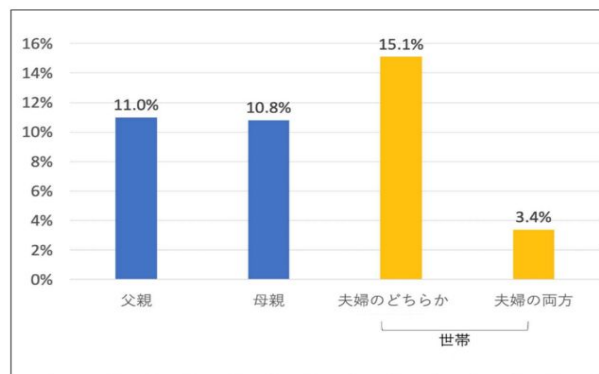
両親の健康・父親の育児参加

Journal of Affective Disorders 324 (2023) 114–120

OPEN Parental psychological distress in the postnatal period in Japan: a population-based analysis of a national cross-sectional survey

Kenji Takehara^{1,2,3}, Maiko Suto¹ & Tsuguhiko Kato²

Mental health assessments of both members of a couple are important when considering the child-



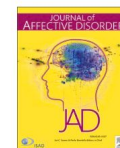
- 生後1歳までのこどもをもつ親のメンタルヘルス (Takehara et al., 2020)
- 父か母もメンタルヘルスの不調のリスク有と判定された世帯は15.1%、夫婦両方は3.4%



Contents lists available at ScienceDirect

Journal of Affective Disorders

journal homepage: www.elsevier.com/locate/jad



The long-term association between paternal involvement in infant care and children's psychological well-being at age 16 years: An analysis of the Japanese Longitudinal Survey of Newborns in the 21st Century 2001 cohort

Tsuguhiko Kato^{a,*}, Yuko Kachi^b, Manami Ochi^{a,c}, Mako Nagayoshi^d, Bibha Dhungel^{e,f}, Takayuki Kondo^a, Kenji Takehara^f

• 父親の育児支援が子供の思春期のメンタルヘルスを改善 (Kato et al, 2023)

- 生後半年時点での父親の積極的育児参加
- 16歳時点で子供のメンタル不調が起こりにくい

こどもカルチャー ＝スポーツ文化に触れる居場所の創出

- 疲れないスポーツ
- 上手いかわなくて問題ないスポーツ
- スポーツに参加しづらいこどもの居場所
- お金がかからない
- 1人でできる

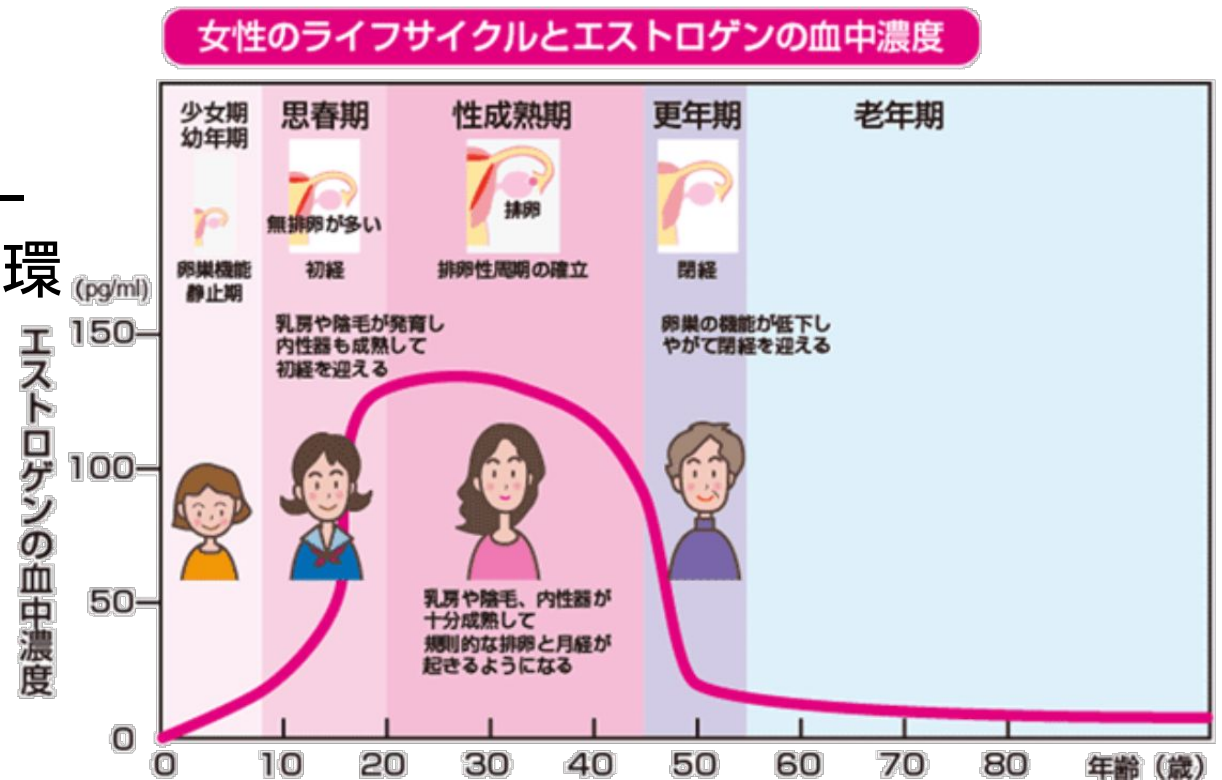


女性のスポーツ振興



Well-being(ウェルビーイング)

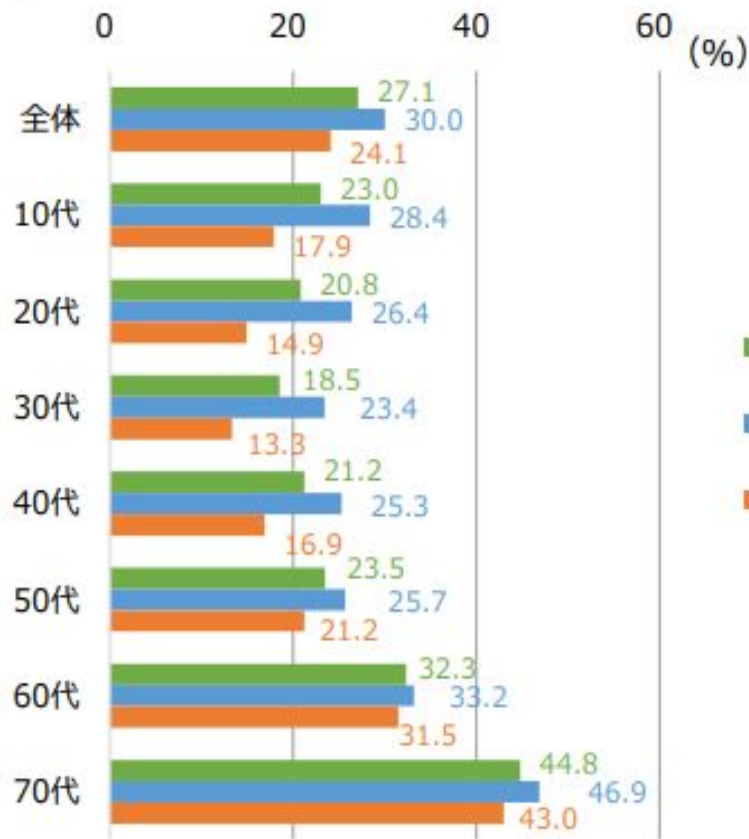
- 個人や社会のよい状態
- 健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定
- (WHO,2021)
- 包括的な概念
- SDGsの実現とも深く関連
- 女性のスポーツ振興の視点



(出典: http://www.otsuka.co.jp/health_illness/menopause/chenge.html)

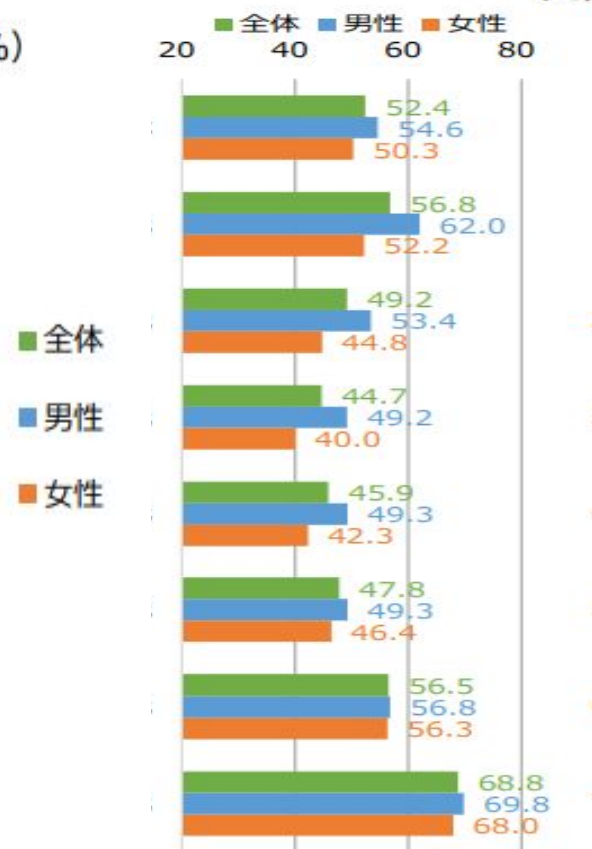
女性のスポーツ実施率 (文部科学省、2023)

③年代別スポーツ実施率の比較



①年代別【週1日以上】

スポーツ実施率の比較 (%)



週1回以上

20代女性 44.8 %

30代女性 40.0%

40代女性 42.3%

1日30分以上汗をかく
程度の運動を週2回
以上1年以上継続

20代女性 14.9%

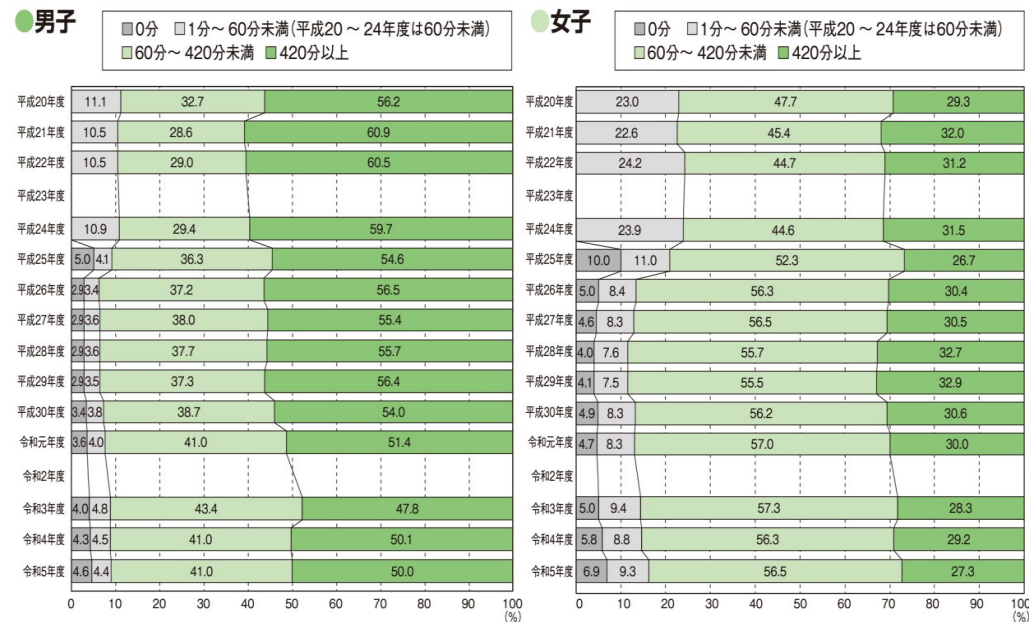
30代女性 13.3%

40代女性 16.9%

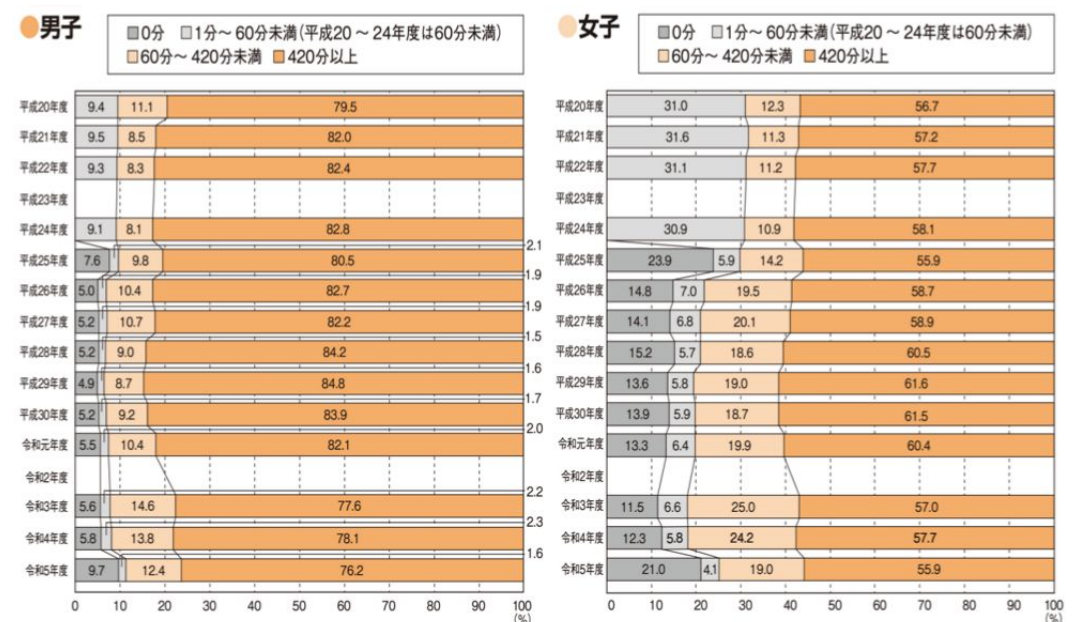
(出典: スポーツ庁「令和4年度『スポーツの実施状況等に関する世論調査』」)

就学期の男女にみられる週総運動時間

・小学5年生



・中学2年生

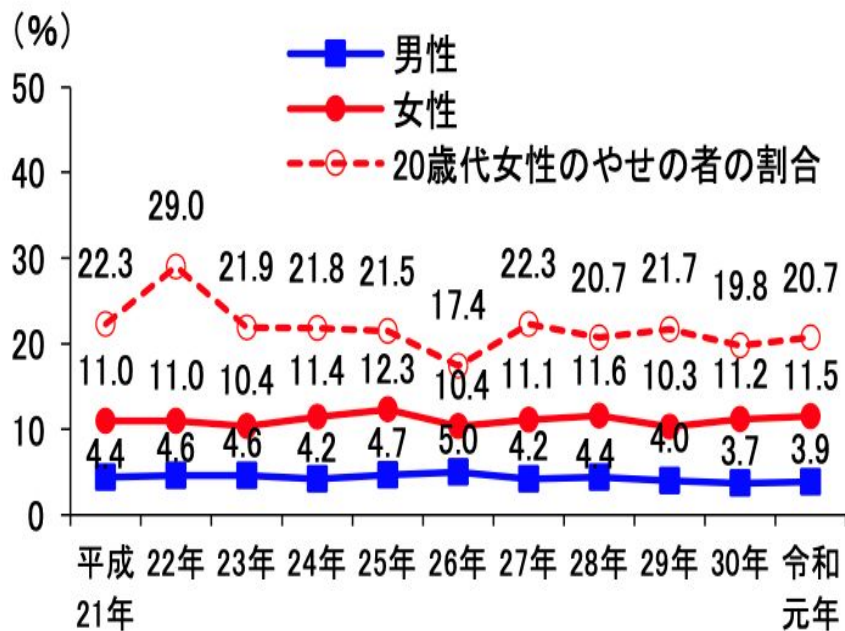


1週間の総運動時間が60分未満の割合

小学5年女子は16.2%→**中学2年は25.1%** vs 男子は9.0%から11.3%

(出典:スポーツ庁「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告書」)

女性のライフイベントと運動



(出典:厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査結果の概要」)

- 若年女性の痩せ
- Lookism (外見至上主義)の問題
- 外見のみを重視して判断され、容貌や容姿を理由に差別を受けること
- SDGsの目標「人や国の不平等をなくそう」と深く関連
- 年齢・性別・国籍などいかなる理由による差別もあってはならない

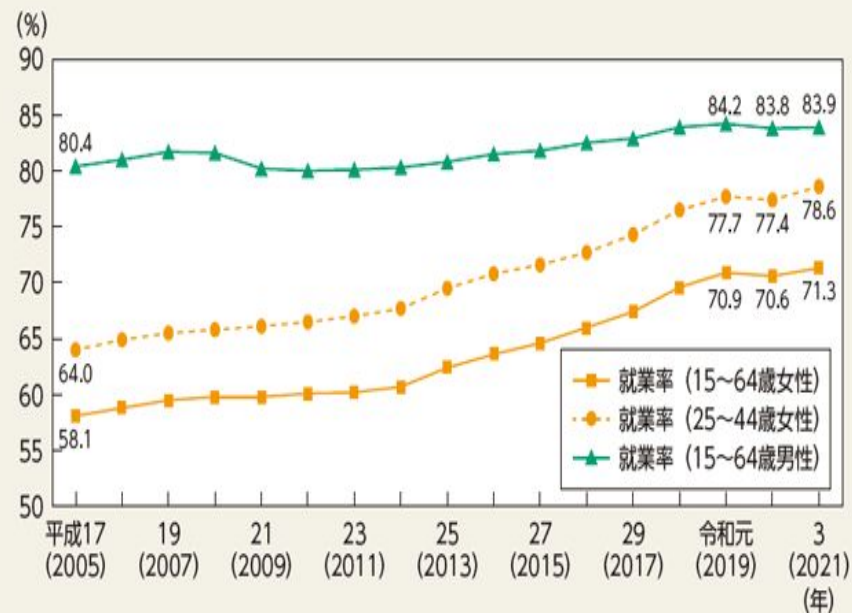


女性のライフイベントと運動

- 青年・壮年期
 - 結婚、妊娠、出産
 - 初婚年齢29.7歳(2023年)
 - 東京は30.7歳
 - 第一子出産年齢31.0歳(2023年)
 - 就業率(25～44歳の女性)
56.5%(S60)から78.6%(R3)
 - 女性のライフスタイルも多様化

2-2図 女性就業率の推移

○就業率は、近年男女ともに上昇傾向。令和2(2020)年は前年より低下したが、令和3(2021)年は、15～64歳の女性は71.3%、25～44歳の女性は78.6%、15～64歳の男性は83.9%。



(備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」より作成。

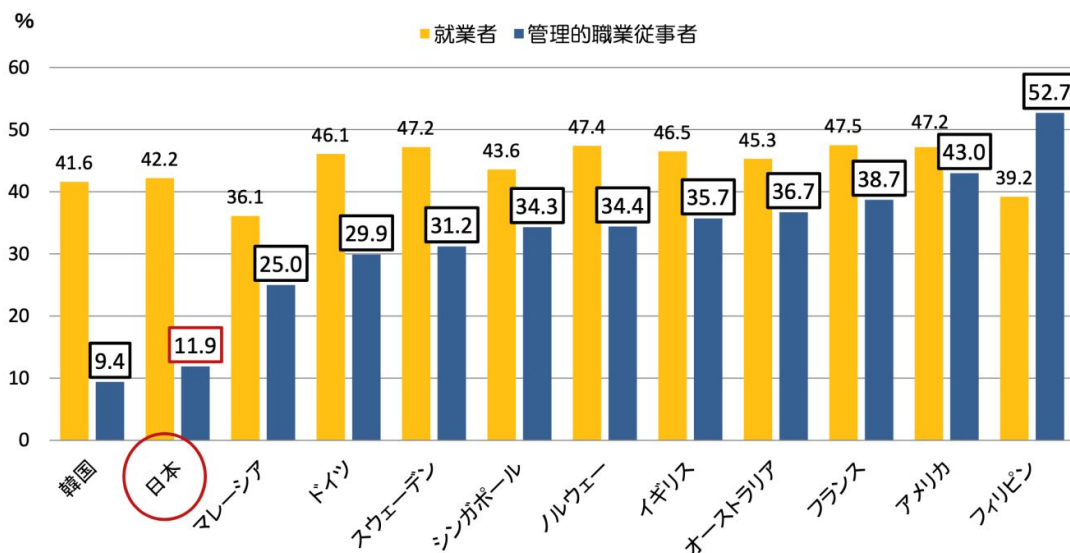
2. 平成23(2011)年の就業率は、総務省が補完的に推計した値。

(出典:内閣府「男女共同参画白書 令和4年度版 全体版」)

ポジティブアクション(積極的改善措置)

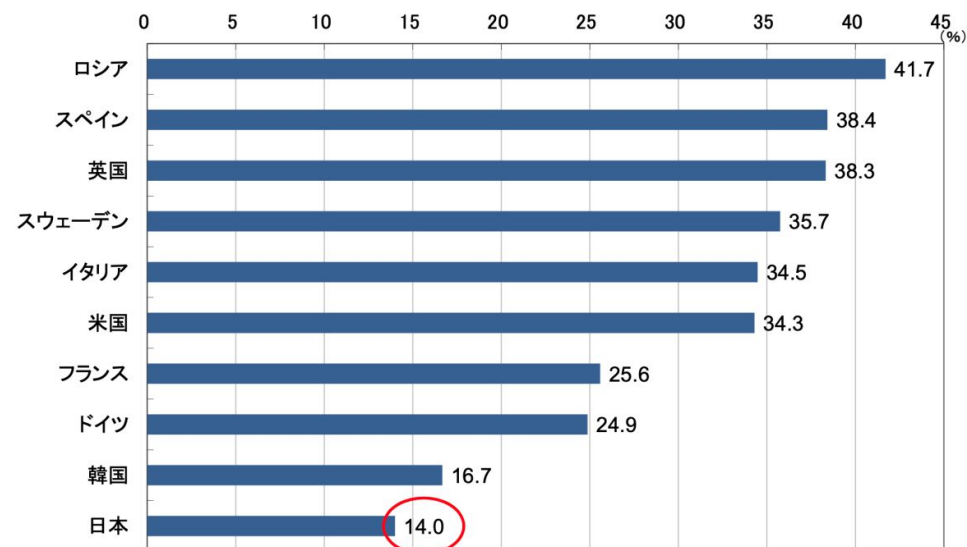
- ・ 指導的立場にいる女性の割合を2020年までに30%にする

就業者に占める女性割合に比べ、管理的職業従事者に占める女性割合は国際的にみても低い



- (備考) 1. 労働力調査(基本集計)(平成23年)(総務省)、データブック国際労働比較2012(独)労働政策研究・研修機構より作成。
 2. 日本は2011年、オーストラリアは2008年、その他の国は2010年のデータ。
 3. 「管理的職業従事者」とは、会社役員、企業の課長相当職以上、管理的公務員等をいう。また、管理的職業従事者の定義は国によって異なる。

研究者に占める女性の割合は、他の先進諸国と比べても低い



- (備考) 1. EU諸国等の値は、EU「Eurostat」より作成。推定値、暫定値を含む。
 2. 日本の数値は、総務省「平成22年科学技術研究調査報告」に基づく(2012(平成24)年3月31日現在)。
 3. 米国の数値は、国立科学財団(NSF)の「Science and Engineering Indicators 2006」に基づく。

(出典:内閣府「男女共同参画ホームページ(ポジティブ・アクション)」)

フェムテック Femtech

- Female (女性) + Technology (テクノロジー)
 - 月経
 - 不妊・妊活
 - ウェルネス (女性特有疾患)
 - セクシャルウェルネス
 - 妊娠・産後
 - 更年期
- 女性特有の健康課題をテクノロジーの力で解決するための製品・サービス
- 女性のスポーツ参加の支援
 - マタニティスポーツ
 - プレメノポーズスポーツ
 - メノポーズスポーツ
- 生理の貧困問題



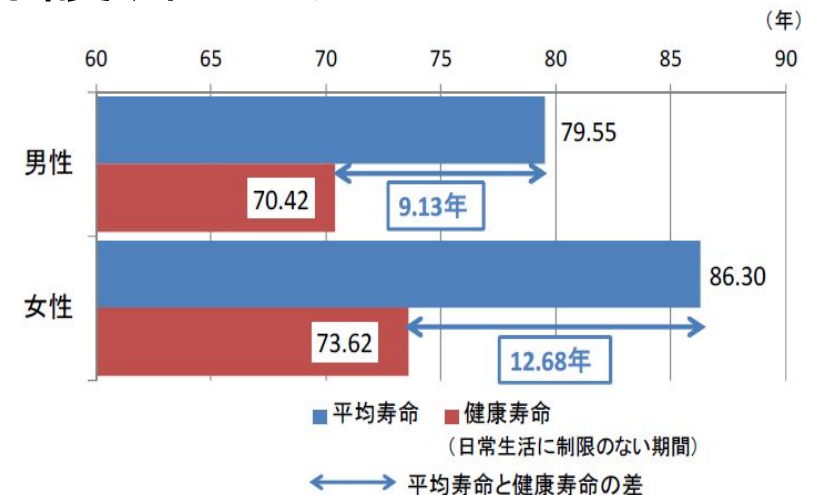
中高年女性の心身の変化

• 閉経に伴う更年期障害

- 平均閉経年齢約50歳(40～59歳)
- エストロゲンの低下により、骨粗鬆症、動脈硬化のリスクが増加
- 更年期障害
 - のぼせ、汗、寒気、冷え症、動悸、胸痛、息苦しさ、疲れやすい、頭痛、肩こり、めまい
 - イライラや怒りっぽいなどの情緒不安定、抑うつ気分
 - 腰痛や関節痛、嘔気や食欲不振、皮膚の乾燥感やかゆみなど

• 高齢期

- 長寿な日本人女性
- 平均寿命と健康寿命の差→10年以上
- 介護、認知症

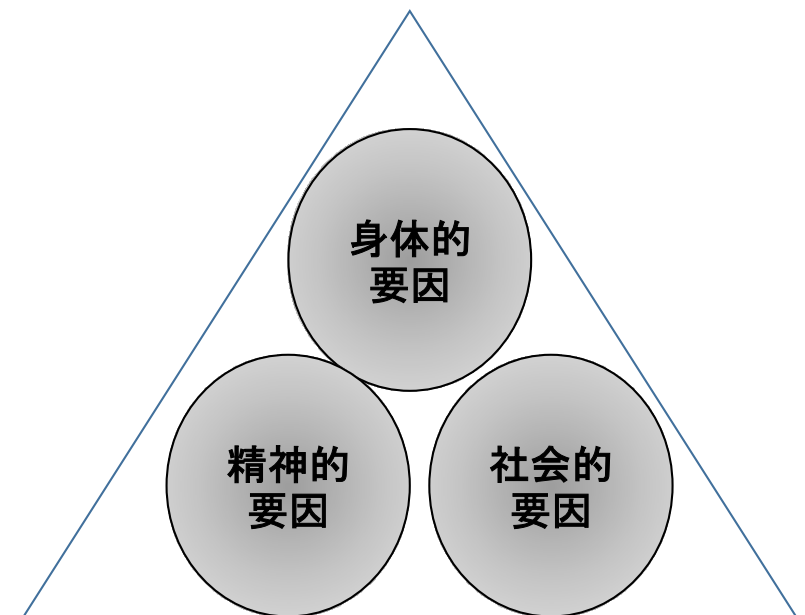
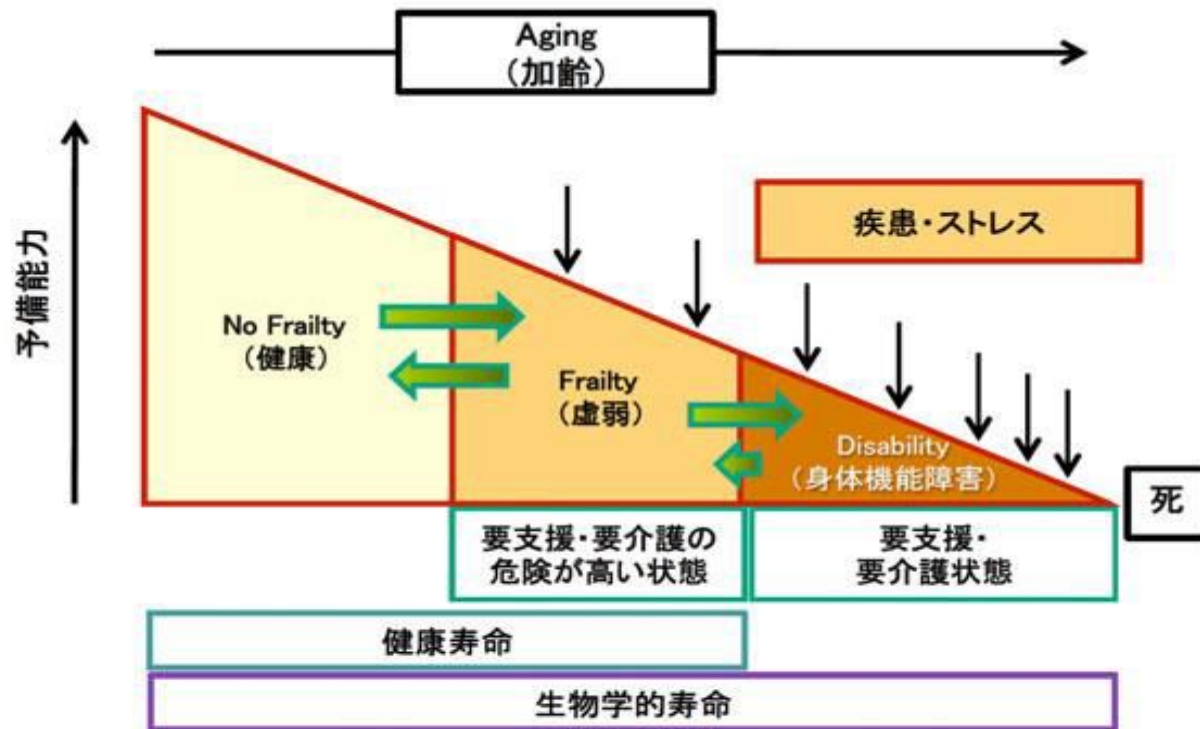


資料: 平均寿命(平成22年)は、厚生労働省「平成22年完全生命表」

健康寿命(平成22年)は、厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

(出典: 厚生労働省「平均寿命と健康寿命をみる」)

フレイル(虚弱: Frailty)



出典： 長寿医療研究センター病院レター 第49号
虚弱（フレイル）の評価を診療の中に
<http://www.ncgg.go.jp/hospital/pdf/news/Hospitalletter49.pdf>

生活環境としてのWalkability (ウォーカビリティ)

• Walkability Index

(Fran et al., 2010)

- ある地点から徒歩で到達できる範囲に、生活利便施設、商業・レジャー施設、教育・学び施設といった生活をする上で近くにあって嬉しい「都市のアメニティ」がどれだけ集積しているかを100点満点で評価する指標

第1表 高齢者を対象としたウォーカビリティ関連の環境指標と身体活動量・歩行量との関係

領域	評価項目	身体活動量	歩行量
総合指標	ウォーカビリティ合成指数	+0P	+
密度 Density	住居密度		+0
活動機会の多様度 Diversity	目的地・サービスへの総合的なアクセス	+0P	+0
	土地利用の混合度	P	
	店舗・商業施設	+0	+0
	公共交通機関	+0	+0
	公園・オープンスペース レクリエーション施設	+P	+0 +
歩行に好ましいデザイン Pedestrian Friendly Design	道路の接続性		
	歩行者向けのインフラ整備（歩道等）	+0	+
	物理的障害（傾斜等）の乏しさ 緑・景観の美しさ	P +P	 +P
安全性 Safety	交通安全性 治安	+P	P +P

+ : 客観的・主観的環境評価を用いた研究群を統合して関連性が統計学的に有意

0 : 客観的環境指標を用いた研究群で関連性が統計学的に有意

P : 主観的環境指標を用いた研究群で関連性が統計学的に有意

出典：Barnett et al. (2017) のTable 5を簡略化。

(中谷と埴淵、2019より)

Physical activity and built environment

身体活動と構築(建造)環境

- Built environment 構築(建造)環境
- 生産された空間編成のうち、可視的な文化を形成する周辺空間
- 歴史的な建物や町並みといった人工的なものと一体になった自然環境
- 人間によって管理された自然環境
 - 例: 里山
- 文化的美的価値が存在
- 街並みの美しさ→身体活動量の増加に貢献
- 景観の良い好きな道を歩く
- 自然と歩数が増加
- 美しさと身体活動量

スポーツやスポーツをめぐる環境に新しい価値＝美という価値観

2025 in Tokyo

• 世界陸上2025

- 陸上に全く興味のない人たちの参加を促進
- 競技場を拠点にしたスポーツと関係のない生活文化イベント

- アート
- フード
- SDGs

- 他の魅力に釣られてスポーツの場に来たら意外と楽しかったという新しい体験

• デフリンピック

- 聞こえない聞こえるは関係ない誰でも参加型のイベント
- Cool Japanを活用した広報

手話単語(しゃべたんご)の うごきを ふりつけに とりいれた ダンスだよ! みんなで おどって、手話言語(しゃべんご)に ふれてみよう!

 **東京2025デフリンピック**
しゅわしゅわ☆デフリンピック!の
おどりがた [うた: プッシーズ きょく/ふりつけ: すかんぽ
編曲: 伊藤ヒロシ 手話監修: 東京都聴覚障害者連盟]

ダンスをおぼえて、
みんなでデフリンピックを
おうえんしよう!



1  **手話**  **手話**  **手話**  **手話**

ジュワジュワ手話	みんなて話せ	ぼくらはずっとつながってる	こんにちは	おもいっしょに	ウオーウオー	Thank you!	みんなておうえんしよう!
両手の人さし指を 向かい合わせて むねの前で回転させる	うでを 上げてふる	むねの前でうでを クロスさせて広げるよ	人さし指と中指をむねの前に立てる 両手の人さし指を曲げる	右手、左手の親で 下の手を出すよ	下げていたうでを大きく 広げながら上げるよ	ひき手を立てて 前に出す	両手を重ね はたをふまふように動かす

 **手話**  **手話**  **手話**  **手話**

たーたーたー たーたーたー たーたーたー	デフリンピック	がんばれ がんばれ	ぱくしゅ	デフリンピック	がんばれ がんばれ	たいじょうぶ
うでを上げて左右にふるよ 足ばくしゅん運動	親指と人さし指でわをを作り 重ねて、上下を反対にして もう一度重ねるよ	グーにした両手を 2回下におすよ	顔の横で手を ひらひらさせる	親指と人さし指でわをを作り 重ねて、上下を反対にして もう一度重ねるよ	グーにした両手を 2回下におすよ	わんまよ(きさ)せた右手の 指先をむねに当ててから 右むねに当てる

 **手話**  **手話**  **手話**  **手話**

デフリンピックの
マーク知りたい!

Adapted/ Inclusive Dance/Sports

- ルールを作らない
- やってはいけないがない
- 新しい事を歓迎
- 違った事を個性として尊重
- 音楽とダンス
- ダンスで生じるグルーブ感
- 快感情の創出
- 音楽、光、映像をはじめとするアートの活用



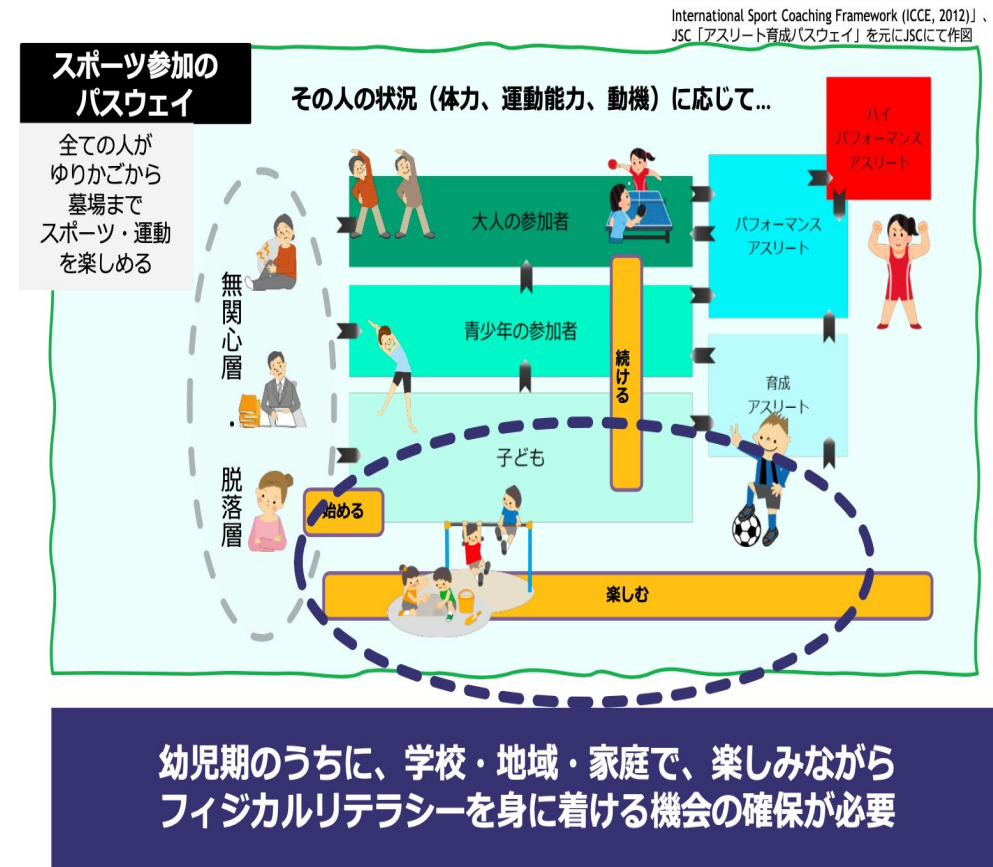
Be creative



スポーツ庁鈴木長官&チョコちゃんがキレキレダンス！スポーツ庁女性スポーツ促進キャンペーン動画「Like a parade」本編

フィジカルリテラシー

- 第3期スポーツ基本計画(2022年～)
- **フィジカルリテラシー**とは
- 体育・保健体育の授業等を通じて運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増加させ生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質
- リテラシー(literacy): 文字の文化や書き言葉の世界を意味



(出典: 日本スポーツ振興センター「フィジカルリテラシー JSC情報・国際部 情報戦略事業資料」)

フィジカルオラリティ

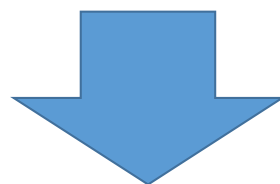
- オラリティ(orality): リテラシー
に対比される概念
- 即興的で一過性の話し言葉の世界や声の文化を意味(対面関係、座談など)
- 言葉だけでない身体的な相互作用、声音、表情、しぐさ、語りから他者理解や共感を実現
- スポーツによるオラリティ
- (何となく)楽しそう
- 言葉にならない場の創出
- スポーツオーラ?
- 勝手に行列のできるスポーツ施設?

スポーツに新しい
価値の創出



女性・子どものスポーツ振興を考える

スポーツを巡る**新しい環境**を創出
スポーツ嫌い、スポーツ参加を阻害する要因から攻める



従来のスポーツ参加にない発想
新しいカルチャー(生活文化スポーツ)の発信

